日本協会だより

平成8年度臨時常務理事会議事録

日時　平成8年2月23日(金)18：30〜22：30
場所　岸記念体育館401号会議室
出席者　中澤専務理事、江成、木野、殿水、井、大西、野田、山下、竹野各常務理事、村松、斎藤事務局長

1．IHFとの契約について
IHFとの契約について、IHFより新しい内容が来ていることが報告され、3月11日から16日の間に最終的な詰めを行い、JAPAN　CUP時に最終的な契約を締結する予定である。

2．IHF・CWLと渡邊副会長との会見内容について
2月1日に行われた、IHF・CWLと渡邊副会長との会見について、広告問題、国際放映、入場料、会場、試合時間、ドロー日程の変更について報告があった。

3．レフェリー選抜コースについて
3月11日までにレフェリー選抜コースについて計画書の提出が要請された。

4．JAPAN　CUP（プレ大会）について
JAPAN　CUP参加チームが最終的に韓国、ノルウェー、ベラルーシ、アメリカ、オーストラリア、アイスランド、中国、日本になったことが報告された。
プレ大会での組織図は、中澤専務理事、竹野理事、その他で詰めることとなった。

5．'97WC組織図について
木野理事より、'97WC組織図について提案がなされた。

平成8年2月度臨時常務理事会（続き）議事録

日時　平成2月24日(土)
　10：45〜12：30
場所　岸記念体育館504号会議室
出席者　中澤専務理事、江成、木野、殿水、井、大西、大塚、野田、山下、竹野各常務理事、村松

1．AHF役員について
AHFより3月15日締切で役員の推薦依頼がきており、調整の上、推薦することとなった。

2．広島国際ハンドボール大会について
広島国際大会について、6月19日より22日まで、韓国、ルーマニア、カナダ、日本の参加で行われる予定であることが報告された。

3．オリンピック観戦ツアーについて
アトランタオリンピック観戦ツアーの企画書が提出された。役員等から割り振りをし、一般にも募集を予定する。

4．東アジア大会について
大阪大会の種目については、白紙であることが報告され、ハンドボールの実施に向けて努力することが申し合わされた。

5．IHFレフェリートレーニングコースについて
全日本総合でのトレーニングコースについて、大塚審判委員長が検討し、渡邊副会長が3月11日よりのIHFとの打ち合わせに持っていくこととなった。またこの件に絡めて、東京都協会との折衝を組織と運営について同時に進行していくこととなった。

6．本多事務局次長について
日立を退職し、日本協会専任に3月21日よりなることが報告された。

7．バレーボール協会会長に関わる新聞報道について
米倉会長のバレーボール協会会長についての報道は、会長自身も知らないことであり、根も葉もないことであることが報告された。

8．理事担当の変更について
機関誌は村松参事、企画（国内大会）は江成理事、企画（国際大会）は井、野田理事で推進していく。

9．'97WCへの推進
組織図、競技運営、IHFとの交渉は竹野、井理事、財源問題は、殿水理事、全国アピール、観客動員は、木野理事、審判問題は大塚理事が担当し、全体の整理を中澤専務理事が行っていくこととなった。

10．'97WC医科学国際会議について
熊本WCの一貫であり、受けざるをえないことが確認された。

評議員会

日時　平成8年2月24日(土)　13：00〜16：00
場所　岸記念体育館　地下1階会議室
出席者
開会に先立ち、福島県協会宗形会長より福島国体が無事終了したことの御礼の挨拶があった。

会議成立の確認
総数52名中、出席者24名、委任状23名で合計47名で会議は成立。

議事録署名人
議事録署名人に、稲生氏（千葉）、青木氏（山口）が指名された。

議題1　平成7年度、第2次補正予算について
殿水理事より説明がなされ、斎藤事務局長より補足があった後、異議なく了承された。

議題2　平成8年度事業計画並びに予算について
各事業部門別に各担当理事より、平成8年度事業に関し、基本方針、重点施策について説明がなされた。
平成8年度予算について、概要が殿水理事より説明された。特別会計について斎藤事務局長より説明された。
質疑の後、異議なく了承された。

報告事項

1．'97WC熊本関連
竹野理事より、世界選手権会場問題、収支予算書、平成8年度予算概要、放送権、テーマソングの募集などについて報告された。
江成理事より、世界選手権大会期間中観戦できるよう大会等の期間を調整していきたい旨協力依頼がなされた。

2．選手強化関連事項について
野田理事より、ナショナル選手を最終的に22名選考することが報告された。

3．平成9年度（10年）2月の日本協会創立60周年記念事業について
実施できるような具体的意見を寄せていただくよう要請された。

4．平成7年全国理事会での高体連提案事項について
高校選抜に関わる高体連提案事項の新聞報道について、説明報告された。

5．社会人大会並びにクラブ大会について
ジャパンオープンハンドボールトーナメント、並びにクラブ大会について報告された。

◆　◆

4月の事業予定

[大会]
4月3日　日独親善試合　全日本男子：フェルデン（ドイツ）　東京体育館
4月7日　全日本UNDER22：フェルデン（ドイツ）　大阪・舞州体育館
4月9日〜14日　ジャパンカップ熊本　熊本県立体育館　他

[常務理事会]
4月6日

(財)日本ハンドボール協会
平成8年度事業計画

平成8年度事業計画にあたり、現在の社会情勢から日本協会の財政状況を検討し、重点施策及び関係事業を策定した。

選手強化・愛好者のための組織作りは日本協会の二大事業ともいえ、両輪合わせて目的達成に努力しているところである。その中で、平成7年度は男女ナショナルチームがともに世界選手権出場を果たした。1997年の男子世界選手権大会熊本開催を来年に控え、本年度は特に男子選手強化、世界選手権熊本開催準備に日本協会の総力を挙げて望む覚悟である。

世界選手権熊本開催準備の一環として、日本ハンドボール界の総力が熊本に集中するよう関心を高めるために関係機関の啓蒙を図り、観客動員を含めて興味関心が高まるよう協力を求めたい。

一方、愛好者のための充実も図り、指導者の育成事業、レフェリーの養成事業、各種大会の援助等、日本協会各担当の総力を挙げて支援する。

上記の目標を達成するために、以下の事業を展開する。

国内競技会の開催

(1)全国大会

●第37回実業団選手権
5/1~5/4 熊本

●第16回全国クラブ選手権大会
(東地区) 7/下旬 福島
(西地区) 7/下旬 山口

●第9回全国小学生大会
7/28~7/30 京都

●第47回全日本高校選手権大会
8/2~8/7 塩山

●第39回全日本教職員選手権大会
8/6~8/9 草加

●第23回全国高専選手権大会
8/10~8/11 熊本

●第1回ジャパンオープントーナメント
8/11~8/14 堺・高石

●第25回全国中学校大会
8/23~8/25 岐阜

●第21回日本リーグ（前期）
9/14~11/4 全国各地

●第51回国民体育大会
10/13~10/17 広島

●第21回日本リーグ（後期）
10/26~12/29 全国各地

●第39回全日本学生選手権大会
11/5~11/10 熊本

●第48回全日本総合選手権大会
12/5~12/8 東京

●第5回JOCジュニアオリンピックカップ
12/26~12/27 堺

●第21回日本リーグプレーオフ
1/10~1/12 東京

●全日本実業団チャレンジ'97
2/9~2/11 近畿

●平成8年度全国高校選抜大会
3/25~3/28 名古屋

(2)関連国内大会

●東日本学生選手権大会
8/19~8/23 金沢

●西日本学生選手権大会
8/14~8/18 神戸

●第51回国体ブロック大会
8/下旬 各地

●ジャパンカップ'96 熊本
4/9~4/14 熊本

●第26回オリンピック大会
7/19~8/4 USA（アトランタ）

●（第4回女子・JN．アジア選手権/世界選手権予選
8月 アラブ首長国連邦）

●第5回女子・JN．アジア選手権/世界選手権予選
5/28~6/4 中国

●第2回女子世界学生選手権
8/26~9/3 ブルガリア

●第4回日・中・韓ジュニア交流大会
8/26~8/28 長崎

●第14回男子世界学生選手権
12/20~1/6 ハンガリー

総務関係事業
江成元伸

●基本方針
国内事業の組織的対応の整備と充実

●重点施策
①諸規定の整備
②各種伝達事項の組織的対応の整備と充実

1．加盟団体事務・責任者連絡会議の開催

強化関係事業
野田 清

●基本方針

1．ナショナルチームの長期強化計画を立案し計画的に強化策を推進する。

2．第15回男子世界選手権熊本大会での目標（①ベスト16②ベスト8③チャレンジメダル）を達成するための強化策を強力に推進する。

(1)オルソン新監督の支援体制を充実する。

(2)特別委員会（選手強化）との連携を密にし世界選手権特別強化費を効率的に活用する。

(3)ナショナル選手所属チームとの協力体制を円滑にし選手強化施策を効率的に実施する。

3．世界大会出場権の獲得及びジュニアアジア選手権大会での上位入賞を果たすための強化策を計画的に実施する。

●重点施策

1. 96年度各ナショナル活動計画に基づきチーム強化策を計画的に実施する。

2. 各種国際大会の上位入賞を果たすための国内外合宿、海外遠征を実施する。

3. スポーツ医科学委員会との連携を密にし選手の体力向上策の推進と健康管理体制の充実をはかる。

スポーツ医科学委員会関係事業

●基本方針

2000年シドニーオリンピック大会出場権獲得の試金石としての1997年男子世界選手権（熊本）、女子世界選手権（ドイツ）、Jr.男子・女子世界選手権（トルコ）の大会を中間目標としての競技力の抜本的向上を主眼とする。

これがため、体力管理と健康管理を根底としたコンディショニングのためのスポーツ医科学研究を推進する。

これらの調査研究結果をナショナル男・女、Jr.男・女選手の個人管理システムを重視したフィードバックを確行する。

この際メディカルサポートを重視する。

●重点施策

(1)体力測定・メディカルチャックによる個人処方

(2)プレッシャーに打ち克つためのメンタルマネージメント

(3)メディカルサポートの実施結果の個人別管理簿の整備

(4)乳酸濃度からみたトレーニング処方と効果測定

指導委員会関係事業

大西武三

●基本方針

1. 指導者の育成

(1)日本ハンドボール指導者研究会の開催

(2)公認コーチ養成講習会の開催

(3)長期的展望にたった指導者育成計画の作成

(4)指導者組織の整備

(5)研修制度の確立

2. 公認コーチ資格の義務づけ制度の発足

3. ゲーム分析の方法と電算化

4. ビデオ教材の開発

5. 「ハンドボール指導法教本」の改定

●重点施策

1. 長期的展望に立っての指導者育成計画

公認コーチ育成計画の長期計画

公認コーチ資格義務づけの計画

2. 指導者組織の整備

指導担当者の連携

日本協会指導専門委員会ーブロック委員長ー都道府県担当者指導担当者と公認指導者との連携

3. 研修制度の確立

指導者の資質向上の為の研修制度、組織の整備

4. 平成8年度公認コーチ養成講習会

日本ハンドボール指導者研究発表会の開催

普及委員会関係事業

大西武三

●基本方針

1. 普及対策の確立

(1)小学校・中学校の普及対策の確立

チーム数拡大対策

指導者養成対策

(2)都道府県レベルでの普及対策

2. 大会の在り方の検討

(1)JOCジュニアオリンピックカップ大会

(2)小学生の大会のありかた

都道府県レベル、ブロック大会レベル、全国大会

(3)国民体育大会

参加資格、種別と参加チーム数等の検討

3. 小学校指導要領へのハンドボールの導入

指導要領の改定に伴うハンドボールの教材としての導入施策

●重点施策

1. 小学生のハンドボールの普及策の検討

2. 将来、当面は2000年に向けて、普及の対策を確立し実行していく。

3. 世界ハンドボール選手権大会に向けて、ハンドボール競技の啓蒙しハンドボール界のみならず、一般の人に向けて行う。

4. 小学校指導要領の改定に向けて、委員会を作り、文部省に働きをかける基盤をつくる（小学校指導要領改定に向けての委員会・学校体育ハンドボール委員会）。

5. 小学生から老人まで、あらゆる指向の人が生涯ハンドボールを行える基盤の確立（大会の再編成）。

審判委員会関係事業

大塚文雄

●基本方針

審査部門の充実と審判員の資質向上をはかる。

●重点施策

審判員資質向上の取り組みに重点をおく。

特に強化委員会からの申し入れ等もあり。

外国のトッププレフェリーを招き研修したい。

企画広報委員会関係事業

木野　実

●基本方針

(1)全日本男女チームの活動の支援、環境づくり。

マスコミ、一般の人達へのPR

(2)国内での国際大会の企画

(3)報道機関との連携と正確な情報伝達。

●重点施策

(1)ジャパンカップ（仮称）プレ大会他

国際試合の企画及びフォロー

(2)全日本男女チームのパンフ作成

(3)マスコミとの交流会開催

(4)全日本選手他　個人選手のPR

(5)全日本チーム地方合宿支援

(6)ドクター・トレーナー等の交流セミナー（フォーラム）開催

日本リーグ運営委員会関係事業

山下　泉

●基本方針

1．熊本世界選手権大会の前年度リーグにあたり、一層のリーグの連帯感と組織力の強化。

2．スケジュールの短縮化（世界選手権の為）

3．日本リーグの活性化の為の施策の具体的実行（21回大会より）

4．日本リーグ・オーナー会議（年2回）、リーグ委員会（年4回）、リーグ常任委員会（年3回）、リーグ運営委員会（年6回）の位置づけ

5．収益事業委員会の新設

●重点施策

1．日本リーグ・スケジュールの短縮化‼効率化（8年　9／14～12／29）

2．プレーオフ（9年　1／10～1／12）

3．JHLカップの開催、日本リーグ、ゴールデンゲームの開催（'97年1月　愛知）

4．各委員会の会議

5．ホーム&アウェイのチーム別の収支状況の調査と今後の対策

6．選手の登録制度の見直し（年1回→年3回）（外国人登録を3名に復活）

7．試合会場のカラフル化→マニュアル作成

財務委員会関係事業

殿水幸雄

平成9年度に男子世界選手権を熊本で開催するにあたり、大会の運営、成績をより良いものとすべく強化、審判の部門へは、重点配慮を行う一方で不測の支出に備え全般には緊縮財政のスタンスを取った。

①一般会計の各事業部門毎に予算を見直し、従来の数値にとらわれない合理的な支出予算にする。

②新設のジャパンオープントーナメントを初め広くハンドボール競技の普及・振興にかかわる大会への補助金を増額する。

③各事業部門共通して会議費を概ね20%削減し効率的な会議の運営と各費の圧縮を図る。

④事業の大幅な拡大に伴う事務関連事業費の高騰に添った予算の見直しと、各費削減のための合理化策を更に推進する。

⑤'97男子世界選手権大会に向け、選手強化事業（特別会計）の熟考と予算の策定をなし、特別強化費の効果ある運用を図る。

国際委員会関係事業

井　薫

国際交流（大会・遠征）

＊男子ナショナル・ジャパンカップ熊本（8ケ国対抗）
4月9日～4月19日

＊男子ナショナル・日、独国際大会
東京　4月3日

＊男子ナショナルB・日、独国際大会
大阪　4月7日

＊第26回アトランタオリンピック
7月19日～8月4日

＊第5回男子ジュニア・アジア選手権大会
アラブ首長国連邦（7月または8月）

＊第4回女子ジュニア・アジア選手権大会
中国　5月28日～6月4日

＊第2回女子世界学生選手権大会
ブルガリア　8月26日～9月3日

＊第14回男子世界学生選手権大会
ハンガリー　12月20日～1月6日

＊男子ナショナル・インターナショナルカップ21チャレンジ
フランス　8月30日～9月9日

＊第9回男子ナショナル・アジア選手権
未定（9月）

＊第6回女子アジア選手権
未定（9月）

＊男子ナショナル・ヨーロッパ遠征
11月15日～12月5日

＊第4回日・中・韓男女ジュニア交流大会
（8月25日～8月30日：長崎）

＊IHF、AHF理事会・総会
アトランタ　7月

機関誌委員会関係事業

木野　実

●基本方針

登録チーム、一般愛好者及び読者に対して日本協会の動き、考え方等を正確にしかも定期的にきちんと発行し伝えていくようにすること。

●重点施策

1．新企画（指導者の条件）、また、普及面への掲載

2．私のチームづくり

3．各理事長に都道府県協会の方針を聞く

4．熊本へ向けてのPR

5．IHF広報

6．各連盟広報

7．各種大会をタイムリーに広報

平成8年度の活動計画と抱負

全日本実業団連盟
熊本世界選手権大会の成功を願う

理事長　市原則之



　実業団連盟の新年度の活動計画と豊富について投稿依頼を受けながら、私ごとから述べさせて頂くことは誠に僭越に感じるが、熊本市で世界選手権を1年数か月後に控え、このアジア初の大イベントが何とか成功裡に終え、そして日本のハンドボールがメジャースポーツの仲間入りできるようにと願う思いとご理解頂きご容赦願いたい。

　あれは平成5年の確か9月頃だったと記憶している。早朝出社するとわが社の故湧永儀助会長（実連副会長から当時顧問）が、興奮状態で私を会長室に呼び、「市原！　熊本に世界選手権を招致するという話を聞いたが、誰が決めたのか！」「アジアでも勝てない日本チームで世界選手権もないだろうが！」「日本協会の財源がゼロで新規事業とは何事だ！　一体誰が金の責任を負うのだ！」等々…。私があたかも招致の提唱者のごとく声を荒だてて叱りつけられた。しかし私の不本意な表情を察知して、「よし、それでは斉藤会長に、ことの成り行きを伺ってみよう」ということになり、早速、平素からの持論である強化に対する考え方や日本リーグの在り方、そしてそれらに関する財源確保の方法等、ハンドボール界の活性策を盛り込んだ提言書をまず提出しよう、ということになった。

　そして一方では、日本協会の実務的運営責任者である渡邊副会長並びに中澤専務にも、この経緯のご説明を願おうと、11月下旬、大崎電気を訪問し、渡邊副会長と中澤専務に殿水日本リーグ担当理事を交えた日本協会執行部に対し、湧永実連顧問、市原実連理事長という立場に於いて、いくつかの質問を投げかけた。この時、連盟内の声なき声を代表する湧永顧問のストレートな質問と責任論が、一瞬その場の雰囲気を悪くしたが、結局、渡邊副会長と湧永顧問の、日頃からの互いの敬意が理解に変わり、熊本の世界選手権のみでなく、これを契機に、協会運営や強化の為の財源確保の必要性をお互いが認識して、斉藤会長にご意見を伺おうということになった。その後、渡邊副会長、中澤専務、湧永顧問そして私の4名で、数度斉藤会長をお訪ねした。斉藤会長ご自身も当初熊本世界選手権招致に対し、多少思うところがおありのようであったが、「ここまで話が進んでいるなら、バブル崩壊後の大変厳しい経済環境にはあるが、ハンドボール界が一丸となって頑張ろうではないか」と言われ、その為には、「日本ハンドボール協会に特別委員会を設置して、委員長を米倉副会長にお願いし、世界選手権推進担当を渡邊副会長、企画・広報担当を立石孝雄副会長、そして選手強化とその財源確保に湧永顧問にお願いしたら…」と、ご提案まで頂戴した。

　そこで湧永顧問は、このご提案を真摯に受けとめて、「強化財源確保の為、まず実連がイニシアティブをとってオーナー会議を開催し、オーナー各位にご理解とご賛同を得ようではないか…」と、私に指示を与えられた。

　その後の経緯は周知の通りで紆余曲折しながらも、この不況下にありながら、日本リーグ加盟企業から3年間に渡り、特別登録金という名目で高資のご協力を頂くことになった。そして湧永顧問は、この強化の為の財源確保にメドを立て、日本リーグ加盟の各企業に感謝しながら、平成6年6月12日不帰の人となってしまった。また

昨年11月22日には、あと1年数か月後、地元で開催される、大変楽しみにしておられた世界選手権を観戦されずして、立石孝雄副会長も、突然のご他界をされてしまった。〝死者に未練を、生者に試練を〟という諺があるが、短期間に特別委員会の掛け替えのない2本の支柱を失ったハンドボール界は、お二人に対して限りない未練を感じるところであるが、同時に多くの試練をも負わされたわけである。

今こそ、ハンドボール界はお二人のご冥福を心よりお祈りしながら、全員が一丸となって、熊本の世界選手権を成功させなければならない。

さて、本題の当連盟の今年度の活動抱負であるが、前述の通り、お二人のご遺志を心して、熊本世界選手権並びにその強化の為に全面的な協力と支援をしていくことを役員一同が確認した。

その一環として、4月には、実連加盟チームの中級クラスのレベルアップの為に招聘するドイツチームとの強化試合も5試合中、東京・大阪の2会場を全日本チームに譲り、また5月の大阪・名古屋の実業団男女選手権も両協会のご理解を得て、世界選手権の運営面に慣れて頂くため、熊本市開催に踏み切らせて頂いた。

また、当連盟のレベルアップがナショナル強化に結びつくことを認識して、8月には韓国実業団選手権に男女2チームの出場を計画し、そして近い将来には、日韓実業団選手権の開催も模索中である。

以上、当連盟あげて物心両面から、熊本世界選手権に支援致しております。どうか日本協会執行部各位には、こうした支援を真摯に受けられ、今こそ力づよいリーダーシップを発揮され、アジア初の大イベントを成功に導いていただきたいと心から願っている次第であります。

全日本学生連盟

組織の充実と活性化を

理事長　福地賢介



平成8年度の行事を見ると、7月に全国大学研修大会（サマーキャンプ）・8月に東西学生選手権大会・8月から9月にかけての第2回女子世界学生選手権大会（ブルガリア）、11月に全日本学生選手権大会・12月から1月にかけて、第14回男子世界学生選手権大会が行われるが、この他にも諸々の活動予定がある。

毎年、年度はじめに一応のテーマというか、このような方針でといった方向づけで、斯界の発展の一助になればと、日本協会をはじめ実業団連盟・教職員連盟・高体連・都道府県協会・その他関係者の助力で、強化・育成・運営・その他で微力ながら努力させてもらっているが、本年度は、組織の充実と拡大及び活性化をメインテーマとして取り組んで行きたいと思っている。

日本ハンドボール界の今世紀のビッグイベントである、97熊本世界選手権を控え男女学生世界選手権大会で何とか上位の成績を残し、少しでも、わが国のハンドボールをアップさせ、学生界のみならず、斯界の活性化に繋げたいと思っている。

近年は、女子も大学への進学率が高まり有望選手の進学が目立ってきているが、平成7年度の全日本総合の男子で、名城大学が17年ぶりにベスト4に進出したような活躍を期待すると共に、学生界のレベルアップを図って行きたいと思っている。

また、その反面、頂点強化のみでなく、全国大会に手の届かない同好会的な、指導者も満足にいないような大学チームの指導による普及で、更に、加盟大学の拡大も行いたいと思っている。

運営面でも、現在の全日本学生選手権大会の開催期間に関して、会場確保の問題とか、審判も含めた役員の確保、選手の健康管理、学業の欠席、その他の問題もあって、見直しを余儀なくされた。平成9年度の男子第40回の記念大会を機会に、開催期間の短縮化とアンケート調査による観客へのアッピールを考慮して、トーナメント方式へ変更する。それに伴う諸問題の処理をうまくこなし、現状以上のアッピールを如何にするかの問題もあり、このための、連盟自体の組織の拡大と充実なども当然出てきている。

経済的な基盤の弱さが、各活動の足かせというか、ブレーキ要因になっており、この点でも、本年度は、従来の斯界と関係ない企業へのアプローチや学連OBの学連への回帰も積極的に行いたいとも思っている。

いずれにせよ、学連自体では微

力であり、事業遂行の為に平成8年度も、各関係団体一般の愛好の方々、その他の皆様のご助力で、更に発展に努めたく、誌上をお借りし、お願い申し上げたい。

【平成8年度全日本学生ハンドボール連盟主要行事予定】

★6月7日　第1回総合役員会

★7月下旬　全国大学研修大会（サマーキャンプ）

＊指導者のいない大学・少人数の為に思うような練習ができない大学・その他練習環境に恵まれない大学の指導と普及と、将来、ハンドボールの指導者を目指す大学生の指導・その他を目的とした大会

★8月14日〜18日　西日本学生選手権大会（神戸グリーンアリーナ・神戸市中央体育館）

★8月14日〜18日　東日本学生選手権大会（金沢市総合体育館）

＊東日本及び西日本学生選手権大会は、東地区及び西地区のNo.1を決めるのみでなく、日頃交流の少ない各地区学生連盟の大学同士の交流と普及を目的として設置された大会であるが、また、今大会の男子上位各8大学・女子上位各4大学に全日本学生選手権大会への出場権が与えられる。

★8月26日〜9月3日　第2回女子世界学生選手権大会（ブルガリア）

＊第1回大会（スロバキア）では、途中、一時は予選リーグの首位に立つなどし結果的には6位入賞で、先々の成績を残したと思うが、敗れた試合も1〜2点差であり、今後に期待が持てた。前回の参加選手が多数のこり、今回も6位以上の期待がもてる。

★11月5日〜10日　男子第39回・女子32回全日本学生選手権大会（熊本県及び熊本市総合体育館）

＊97熊本世界選手権大会のリハーサルを兼ねて開催されるが、男女共に今後の全日本を背負う選手の活躍が注目される。

＊今回をもって、予選トーナメント・準決勝リーグ・順位決定戦の競技方式が終了し、男子40回大会から男女トーナメント方式に変わる。

★12月27日〜1月6日　男子第14回世界学生選手権大会（ハンガリー）

＊前回は、優勝したロシア・3位ウクライナと同じ組で、予選突破ができなかったが、順位決定戦では、ヨーロッパ勢とも2〜3点差の勝敗のゲームを展開し、一応の目安もたち、早い攻撃と積極的な守備力で決勝トーナメント進出を目指している。

★平成9年1月25日　第2回総合役員会

全国高体連
今こそ、部活動の一層の充実を

全国高体連ハンドボール部長　高田日呂美

高体連に加盟している各専門部の多くは、現在、加盟校の減少と部活動参加する部員数の減少という大きな課題を抱えている。

ハンドボール専門部においても、増加の一途をたどってきたこれまでと比べ、現在のところ減少はわずかであるが、早晩、減少の傾向が強まることが予測される。これは、ハンドボールを支える足元の大きな問題である。

この減少の最も大きな要因は、生徒数の減少であることは言うまでもない。高校に入学する生徒数が東京都では10年後には現在の3分の2になると予測されているほどである。

さらに、高校生の気質の変化という点も見逃すことはできない。最近の生徒の中には、自己中心的で耐性に欠け、集団の中で自らを鍛えようという意欲に乏しく、最小の努力で最大の効果を得ようとするなどの傾向が見られるようになったことが上げられる。

一方、現在進められている第15期中央教育審議会の学校週5日制の完全実施に向けての論議では、「学校スリム化論」の中で運動部活動の存在の見直しが検討されているという。

このように、ハンドボール部の存在を危うくするような内外の様々な状況にあって、今こそ、学校教育活動としての部活動の存在を再確認し、ハンドボールの仲間を一層増やして、活動の充実を図ることが強く求められている。

運動部活動では、高校生年代の若者が持つエネルギーを健全な方向に働かせる上で極めて重要な役割を果たしている。多くの高校生が、放課後の運動部活動を楽しみに登校し、あるいは、様々な大会への出場を夢見ながら学校生活に励んでいる。厳しい練習の中で、互いに認め合い、高め合い、励まし合って大きな目標に向けて全力を尽くしている。ここでの体験で得られる、成就感、挫折感、熱い友情、堅い絆などは何にも変え難い人生の財産となる。また、校内にいる技能の優秀な選手の存在は、一緒に学ぶ生徒にとって大きな誇

りとなり、その運動部の活躍が学校活性化の大きな活力源となっている。

これからの高等学校には、生徒の多様なニーズに応え、多様な価値を受け入れる姿勢が求められている。その意味においても、運動部活動の担う役割は、今後ますます重要になってくる。

ハンドボールは、走る、投げる、跳ぶの身体運動の三大要素を育てると共に、協力、責任、抑制、克己などの精神的要素を育む素晴らしいスポーツであり、高等学校の部活動にはなくてはならないものである。

日本の高等学校の文化のひとつとしての部活動を、高等学校教育の中に明確に位置づけると共に、指導者の養成・配置・設備の充実を図り、これからの、生涯体育・スポーツの時代を見据え、社会体育との連携・協力を視野に入れながら一層充実していきたい。

㈶日本中体連

更なる発展へのスタートを

日本中体連ハンドボール部長　真田　元



まずはじめに、平成7年度で㈶日本中体連（前身、全国中学校体育連盟として発足）が、満40年の年月を経、17種目の競技大会、研究大会とともに、更なる発展へのスタートを切った。

【㈶日本中体連の基本方針】

①学校教育の団体としての主体性をもつ

②国民に対し、財団法人としての責任と義務をもつ

③国の内外に目を向け、開かれた㈶日本中体連とする

をふまえ、人間尊重の精神に基づき、開かれた心を持ち、体育・スポーツ活動を通して、中学校生徒の人間形成に努め、各競技の普及・発展を図る。

【今年度の計画】

1．大会の開催

①主催（共催）大会

第25回全国中学校大会　8月23日～25日　岐阜市

②関連大会

第5回JOCジュニアオリンピックカップ大会12月26日・27日　大阪・堺市

2．部会の開催

8月21・22・24日（全国大会時に）岐阜市

3．予想される協議内容

①チーム数の減少をいかにして増加の方向に向けるか。

②強化委員会とのからみの中で、中学生を底辺とした日本全体のピラミッド型への移行の方向性は。

③ぬいボールによる競技力向上の成果は。

④現行、男・女各20チームのブロック割当数の見直し。

⑤中学校教員の審判組織の整備と質的向上を図るための具体的方策の推進。

ブロック委員長9名による会合は、年1回（夏季大会）しか持てず、文書連絡等で意志疎通を図っているのが現状である。

【今年度の抱負】

1．大会の充実

中学校の保健体育科の授業を出発点とし、校内競技会→市区町村の競技会→都道府県の競技会→9ブロックの競技会→全国の競技会へと発展していく過程の中で生徒達のより豊かな生活のために体力、技能及び社会性のトップレベルを求めて行きたい。

2．㈶日本中体連ハンドボール部の組織的充実

昨年の埼玉大会より、中体連のブロック審判長の位置付けを開始した。それによって（数年かかるかもしれないが）競技部会の性格、位置付け、役割と、審判部による、より良いゲーム管理ができてくると思われる。

3．JOCジュニアオリンピック有望選手を含む強化指定選手の発掘。

中体連単独では難しいので、日本協会（ブロック、都道府県協会）の強化委員会（部）とのタイアップの上、中学ー高校ー大学ーナショナルチームのライン作りができると、中学生にとって大きな夢になると思われる。

終わりに、㈶日本中体連ハンドボール部は、40年の歴史があっても、まだまだ組織的未整備の部分や義務教育による足かせ等があり、関係各位、関係機関、団体のご理解、ご支援が必要なのが現状です。

今後とも、よろしくお願いしたいと思います。

オルソン全日本スタート!!

オルソン全日本男子第一次候補選手決まる

97年世界選手権大会の全日本男子第一次候補選手16名（GK2名・CP14名）が選ばれた。

コーチに田口隆氏(本田技研)が引き続きコーチとして残り、新コーチに酒巻清治氏（湧永製薬監督）が就任

最終的には5月の実業団選手権大会のあと6名を選ぶことになっている。

ただし途中入れ替えもあると厳しい姿勢をとっている。

オルソン監督の人選と方針は次の通りである。

◎選手の人選のねらい

1、選手の人選はオフェンス中心に考えた。

2、人選する上で最も重要なのが精神面。プレッシャーに強い人。試合途中で諦めてしまう選手は不必要。

3、試合中に考えてプレーする判断力のある選手。決められたことしかしない選手は必要ない。

◎これからの方針

1、体格面の改善。5～15kgのウエイトアップ

2、精神面の強化。

3、日本人の得意とする素早さを更に強化し、欧州のトレーニングも取り入れて練習する。

4、小さなミスをなくしていくこと。

5、コート上で感情をアピールすること。観客が楽しめるスポーツにする。



自ら作ったTシャツを選手にプレゼント



左から田口コーチ、オルソン監督、酒巻コーチ

'97世界選手権（熊本）全日本男子第1次候補選手

監　督	オレ・オルソン	スウェーデン	1948.6.1
コーチ	田口隆	本田技研工業	1961.7.23
〃	酒巻清治	湧永製薬	1962.5.7
指導普及	栗山雅倫	筑波大学院	1972.6.21

選手	氏名	所属先名	生年月日	身長	体重	出身高校	出身大学	出身地
GK	橋本行弘	本田技研	1965.9.17	186	81	岡崎城西高	——	愛知県
	井上耕一	中村荷役	1967.10.4	184	83	川崎北高	東海大	神奈川
CP	魚住和彦	大崎電気	1966.10.24	188	80	東海大二高	東海大	熊本県
	末岡政広	大同特殊鋼	1967.9.1	177	77	瓊浦高	福岡大	長崎県
	高木浩司	中村荷役	1967.9.7	182	73	明石北高	日体大	兵庫県
	中山　剛	湧永製薬	1969.7.4	191	87	久留米工大付高	福岡大	福岡県
	藤井孝志	大同特殊鋼	1969.7.27	189	86	高岡向陵高	筑波大	富山県
	泉　光介	中村荷役	1970.7.23	177	80	兵庫育英高	大体大	兵庫県
	岩本真典	山陽商会	1970.9.28	200	88	熊本市立商高	早稲田大	熊本県
	森本彰宏	大崎電気	1970.12.23	182	80	北陽高	大阪体大	大阪府
	永山　強	大崎電気	1971.9.9	178	75	浦和実業高	順天堂大	埼玉県
	冨本栄次	大同特殊鋼	1971.10.18	182	75	日体荏原高	日体大	神奈川
	木浪達文	中村荷役	1971.10.30	188	85	青森商高	国士館大	青森県
	杉山裕一	湧永製薬	1972.9.21	190	88	岐阜商業高	——	岐阜県
	茅場　清	本田技研	1973.7.8	181	76	笠間高	日体大	茨城県
	田中　茂	三陽商会	1967.9.2	182	79	瓊浦高	筑波大	長崎県

強豪がやってくる!!

ジャパンカップ'96熊本

1997年5月の男子世界選手権大会を約1年余りに控え、この度ジャパンカップ'96熊本（プレ大会）が4月9日～14日まで、6日間、日本を含む世界の強豪ナショナルチーム8か国が集い、開催される。

出場国はアイスランド、ノルウェー、ベラルーシ、アメリカ、オーストラリア、中国、韓国、日本の8か国。

日本にとってはオルソン新全日本監督を迎え、ナショナルマッチとして初めての試合だけに注目が集まる。日本は3月上旬、初顔合わせのあと合宿を積みどんな戦術で、また、選手の動きがどのようにかかわってきているのか、新人3人の加入と各ポジションに2人を配置した選考で選手達の競争意識もたいへんなものになっている。

出場各国の最近の戦績は別掲の通りになっているが、アイスランド、ノルウェー、ベラルーシの欧州勢は力があるだけに、日本としては願ってもない現在の力をためす絶好の機会となる。

また、アジアの雄・韓国はアトランタの切符を逃したもののそのチーム力はアジアNo.1の評価と世界でも5～6位の実力があるだけに今大会でも優勝の一番手に挙げられる。

同じアジアの中国も着々と強化を重ねていると伝えられていて、今回の参加の申し込み、メンバーの提出など一番早く届き意欲がみられる。

アメリカはアトランタオリンピック代表チームがオリンピック3か月前の戦いになり、この2、3年の強化がどれだけすすんでいるかも興味深い。

オセアニアの代表であるオーストラリアがアトランタの次のシドニーの大会に備え、若手中心に海外へ出て積極的な強化策を打ち出していてどんなプレーを披露してくれるか楽しみだ。

（試合方式）

8か国を4か国にグループに分けて総当たりの予選リーグ戦

（4月9・10・11日）

出　場　国

★アイスランド
- 1988年、ソウルオリンピック８位
- 1990年、世界選手権10位
- 1992年、バルセロナオリンピック４位
- 1993年、世界選手権８位
- 1995年、世界選手権13～16位グループ

★ノルウェー
- 1993年、世界選手権13位

★ベラルーシ
- 1995年、世界選手権９位

★アメリカ
- 1993年、世界選手権16位
- 1995年、世界選手権出場
- 1996年、アトランタオリンピック出場

★韓　国
- 1988年、ソウルオリンピック銀メダル
- 1990年、世界選手権12位
- 1993年、世界選手権15位
- 1995年、世界選手権12位
- 1995年、アジア選手権２位

★中　国
- 1994年、広島アジア大会３位
- 1995年、アジア選手権５位

★オーストラリア
- 1994年、オセアニア選手権１位

★日　本
- 1990年、世界選手権15位
- 1994年、広島アジア大会２位
- 1995年、世界選手権出場
- 1995年、アジア選手権４位

試合日程・会場、組み合わせ

4/9(火)　熊本市総合体育館　　予選リーグAグループ
18:00～　アイスランド共和国×オーストラリア
　　　　　開会セレモニー
20:00～　アメリカ合衆国×日本

合志町総合体育館　　予選リーグBグループ
18:00～ベラルーシ共和国×ノルウェー王国
19:40～中華人民共和国×大韓民国

4/10(水)　八代市総合体育館　　予選リーグAグループ
18:00～アイスランド共和国×アメリカ合衆国
19:40～オーストラリア×日本

熊本市総合体育館　　予選リーグBグループ
18:00～ベラルーシ共和国×中華人民共和国
19:40～ノルウェー王国×大韓民国

4/11(木)　熊本市総合体育館　　予選リーグAグループ
18:00～オーストラリア×アメリカ合衆国
19:40～アイスランド共和国×日本

水俣市総合体育館　　予選リーグBグループ
18:00～中華人民共和国×ノルウェー王国
19:40～ベラルーシ共和国×大韓民国

4/13(土)　熊本県立総合体育館　　順位決定戦　決勝トーナメント
12:00～７位決定戦　　Aグループ４位×Bグループ４位
13:40～決勝トーナメント第１試合　　Aグループ１位×Bグループ２位
15:30～決勝トーナメント第２試合　　Aグループ２位×Bグループ１位

4/14(日)　熊本県立総合体育館　　順位決定戦　決勝トーナメント
12:00～５位決定戦　　Aグループ３位×Bグループ３位
13:40～３位決定戦　　決定トーナメント第１・２試合敗者同士
15:30～決勝戦　　決定トーナメント第１・２試合勝者同士

世界の

各グループの上位2か国による決勝トーナメント、順位決定戦（4月13・14日）

（運営体制）

本番に近い形で熊本実行委員会が中心になって運営するが、大会のPRと集客を図る観点から会場を県内各地5会場を使用し展開する。なお、この大会は日本で初めての賞金大会となる。

大会入場料

●予選リーグ（4月9日～11日）
大人　1500円（前売り券1200円）
中高生1000円（前売り券　700円）

●決勝トーナメント・順位決定戦（4月13日・14日）
大人　2000円（前売り券1500円）
中高生1500円（前売り券1000円）

レフェリーは、ヨーロッパ、アジアから国際トップレフェリーを招へいする。

斉藤英四郎名誉会長を囲む会が盛大に開催される

2月2日経団連会館にて斉藤名誉会長を囲む会が開かれた。18年間ハンドボール協会会長としてハンドボールの振興発展の為にご尽力され長年の労苦に感謝の意味と引き続き今後も名誉会長としてのお立場でご指導をお願いし、かつ97年の男子世界大会への絶大なるご支援を賜わることからも今般開催されたものである。

会には米倉功会長はじめ渡邊佳英副会長、中澤専務理事、日本協会常務理事、理事、監事、参事それに評議員、日本リーグオーナーもご多忙中、多数ご出席いただき、なごやかな懇談がつづいた。

記念品の贈呈のあと、斉藤名誉会長から過去18年間の就任中のことをこと細かく、熱っぽく語られ、また、元専務理事の大野金一氏、前専務理事の安藤純光氏からは名誉会長との想い出話が披露された。

最後に全日本実業団連盟会長の草井由博氏の音頭で万歳三唱があり散会した。


斉藤名誉会長


草井実連会長

出席者は次の通り。

●日本協会

（会長）米倉功、（副会長）渡邊佳英、（専務理事）中澤重夫、（常務理事）江成元伸、木野実、殿水幸雄、井薫、大西武三、野田清、山下泉、竹野奉昭、（理事）藤原侑、佐分正典、豊島康彰、森豊夫、市原則之、福地賢介、住尾勉、（監事）大野金一、佐野和夫、（参事）駒林昭三、加藤岳郎、大矢三郎、中川敏文、柳井文治、松原忠、山下勝司、真田元、村松誠、（参与）安藤純光

●評議員・滝口三郎、植村繁、伊藤和夫、久保義雄

●日本リーグ

草井由博（湧永製薬）、鈴木健夫（三景）、恵美正三（大阪ガス）、笠井要（本田技研）、東山馨（大同特殊鋼）、近森克彦（三陽商会）、小林能治（日新製鋼）、三浦孝（日新製鋼）、茂呂正行（ジャスコ）



'97年世界大会だより　=大会テーマソング決まる=

大会の認知と気運をさらに盛りあげるため大会テーマソングを世界から一般公募をしていましたが、この度全応募作品の中から選考の結果、テーマソング一点と応援歌一点を選出しました。

◎テーマソング

制作　ザ・ミュージック・キッチン(アメリカ)
作曲　マイケル・ベンギアット
作詞　マイケル・ベンギアット
　　　ケリー・コールマン

◎応援歌

作詞・作曲　前田敏博(熊本市)

◎応募内容

応募総数　242点(作詞202点、作曲112点)
応募国別　イギリス、アメリカ、スイス、中国、韓国、日本
応募エリア　九州133、中四国8、近畿21、中部17、関東33、北海道・東北9、海外16、不明5
年齢別　最年少13歳、最高齢75歳
選考委員
　かなぶんや　タレント
　竹崎　祐二　㈱E・T・エンタープライズ
　片山　和子　音楽プロデューサー
　木野　　実　日本協会

尚選出された作品は4月9日(火)に開幕するプレ大会(ジャパンカップ)で発表の予定です。

ONE BALL, ONE WORLD

(山本仮訳)

世紀の大舞台でのゲーム
力のかぎり堂々と勝利を目指せ

旗を高々とかかげよう
みんなにチャンスがある
自分のスピリッツを昂揚(たか)く
舞い上がる鳥のように

ONE BALL, ONE WORLD
自分を鍛える絶好のチャンス
試練の場に飛びこみ、全力を尽くそう、ともに
ONE BALL, ONE WORLD

勝利を目指し、ゲームが始まる
だけど、勝利だけじゃなく、世界をよくするために
人種を超え
よけいなプライドは投げ捨てて
気持ちを通い合わせ
ひとつになろう

ONE BALL, ONE WORLD
ひとつになるチャンス
世界を永遠によくするため
ONE BALL, ONE WORLD

ONE BALL, ONE WORLD
自分を鍛える絶好のチャンス
試練の場に飛びこみ、全力を尽くそう、ともに
ONE BALL, ONE WORLD

ONE BALL, ONE WORLD
自分を鍛える絶好のチャンス
試練の場に飛びこみ、全力を尽くそう、ともに
ONE BALL, ONE WORLD

マイケル・ベンギアット

作曲家、プロデューサー、そして音楽プロダクション「ミュージック・キッチン」のオーナー。
1963年4月13日カリフォルニア州サンタモニカ生まれ。パシフィック・パリセーズで育ち、8歳の時に母親の勧めでピアノを始める。後にクラシック・ギターにのめり込む。UCLAの作曲科を卒業、同大学院の奨励を受ける。
1986年、GRNミュージック・キッチンをスタートさせる。
三菱モーターズ、アップル・コンピューター、ラッキー・ストア、キャシー・スミス、ジョニー・カーソン、MTV、ピザ・ハット、ブルー・クロス、ホンダ・ディーラー、パシフィック・シアター、ロサンゼルス・タイムズ、他、TV・ラジオCM、映画、ビデオ、CD、TV番組などに音楽を提供。
またアニメ、「セイラー・ムーン」の音楽を作曲し、サウンドトラック版CDをリリースしている。

ケリー・コールマン(Co-writwr)

シンガー・ソング・ライター、俳優。
1963年6月17日ロサンゼルス生まれ。両親共に俳優。子供時代はバレリーナを夢見てバレエを習うが10歳でギターを始め、作曲、歌を歌い始める。高校では聖歌隊で、クラシックコーラスを学ぶ。その間もバレエを続け、1976年はロイヤル・アカデミー・ダンスの試験に奨励生として合格。
1981～86年、奨学生としてペパータイン・ユニバーシティで音楽とシアターを学ぶ、80年代半ばから、現在までバンドでボーカルとギターを演奏。またダン・シーゲルのアルバムの共同作曲やボーカルで参加。

◇全日本実業団ハンドボールチャレンジ'96◇



男子決勝戦。シュートは横越（北陸電力）（福井新聞社提供）

男子北陸電力、女子立山アルミが初優勝

全日本実業団ハンドボール連盟副理事長　近森克彦

全日本実業団ハンドボールチャレンジ'96は2月10日（土）～12日の3日間、福井県松岡町北陸電力体育館フレアにて昨年阪神大震災の為出場不能、または辞退した大阪ガス、神戸製鋼、北陸電力、の3チームを含めた男子32チーム、女子3チーム（松下電工彦根が直前で辞退）で開催されました。昨年まではトーナメント大会の名称で親しまれ過去26回の歴史のある大会を本年度より巻頭の如く名称を変えて新しい気持ちで催された大会となりました。

結果は男子は地元北陸電力、女子は立山アルミが共に初優勝を飾り成功裡に終了しました。

《男子》

本田技研熊本、トクヤマ、トヨタ自動車、大阪ガス、北陸電力の日本リーグ2部勢に日新製鋼呉鉄球会、大同特殊鋼星崎のサテライトチーム、初参加K・F・Cの各チームがベスト8に順調に勝ち進み、準々決勝からは接戦の試合が続いたが、結局地元の利を生かし大勢の応援団の声援を背に北陸電力が初の決勝戦で本田技研熊本を追い込まれながらも僅差で破り初優勝を果たした。昨年の止む無き辞退からの奮起の優勝、今後チーム強化にも大いに期待がつなげられるような成績である。

この結果、上位3位チーム（北陸電力、本田熊本、日新呉鉄球会）が5月1～4日、熊本市での全日本実業団選手権大会の出場権を得、本大会に進むこととなった。

《女子》

残念ながら松下電工彦根の辞退で3チームによるリーグ戦となり、現在日本リーグ2部でトップを走る立山アルミが韓国2選手を中心としたスピードのある攻撃で他チームを圧倒し初出場、初優勝の栄冠に輝いた。

上位2チーム（他にムネカタ）が本大会に出場するが立山アルミは台風の目となる存在になるものと思える。

《総評》

予選を勝ち抜いて今大会に出場した各チームに対し今後も引き続き会社に理解を得ながらチームの強化に努力して続けていただきたい。が中でも男子の豊田合成（愛知）、アラコ（佐賀）、八光自動車（大阪）、K・F・C（大阪）、金沢市役所、女子の自衛隊体育学校の各チームは更に練習を積み、常に大会では上位に残れるよう、かつまたハンドボール界の発展の為も含めて、日本リーグ入り目指し強化に励んで欲しく思う。

今大会は福井県ハンドボール協会の大層なご協力があり、成功に終わった。

【成績】

▼男子1回戦

本田技研熊本32－14日鐵建材工業
セントラル37－7日本ガイシ
豊田合成25－20JUKI
トクヤマ27－12常陽銀行
三景29－8住友金属和歌山
大阪ガス30－14ブラザー工業
K・F・C30－12SEIREN

マツダ35－19コスモ石油
日新製鋼呉43－15住友銀行
新日鐵名古屋25－21日本原研
フクセン21－13竹芝精巧
大同星崎35－12出光千葉
アラコ14－13八光自動車
北陸電力41－13日本発条
金沢市役所30－21神戸製鋼所
トヨタ自動車33－7日本製紙

▼男子2回戦

本田技研熊本24－14セントラル
トクヤマ20－13豊田合成
大阪ガス24－20三景
K・F・C28－19マツダ
日新製鋼呉37－6新日鐵名古屋
大同星崎23－17フクセン
北陸電力31－19アラコ
トヨタ自動車20－19金沢市役所

▼男子3回戦

本田技研熊本34－21トクヤマ
大阪ガス30－20K・F・C
日新製鋼呉30－28大同星崎
北陸電力28－22トヨタ自動車

▼男子準決勝

本田技研熊本20－11大阪ガス
北陸電力30－27日新製鋼呉

▼男子3位決定戦

日新製鋼呉33－16大阪ガス

大阪ガス 得点	氏名	番号	日新製鋼呉 番号	氏名	得点
0	福田	1	1	亀山	0
0	奥野	2	2	藤本	7
4	三羽	4	3	友納	4
1	内藤	5	4	千葉	0
1	下尾	6	⑤	林原	6
1	島平	7	6	貝田	11
1	濱田	8	8	森	0
5	森島	9	10	小林	3
0	向井	⑩	11	東	2
3	加地	11	12	谷	0
0	曽根	12	14	荒木	0
			15	木村	0
16	合計				33

▼男子決勝

北陸電力23（15－11、8－11）22本田技研熊本

本田技研熊本 得点	氏名	番号	北陸電力 番号	氏名	得点
0	緒方	1	1	熊本	0
2	寺島	2	2	手塚	0
2	大中	④	3	藤枝	0
6	清水	6	4	横越	10
1	花岡	8	5	鍛原	0
2	緒方	9	6	角谷	3
3	児玉	14	7	北川	4
1	川勝	15	9	北村	0
0	宮本	16	10	坂本	6
1	長松	17	11	表	0
0	矢野	18	12	西田	0
4	マルコビッチ	19	14	前田	0
22	合計				23

【順位】①北陸電力②本田技研熊本③日新製鋼呉

女子（リーグ戦）

ムネカタ17－14自衛隊体育学校
立山アルミ32－20自衛隊体育学校
立山アルミ31－18ムネカタ

【順位】①立山アルミ②ムネカタ③自衛隊体育学校

連日、寒さを吹っ飛ばす熱戦を展開

企画・広報委員　飯田信行

厳寒の北陸、福井県にて名称も新たになった全日本実業団ハンドボールチャレンジ'96が男女共同にて開催され、男子・北陸電力、女子・立山アルミがどちらも初優勝を飾った。

'96年5月、熊本にて開催される、全日本実業団選手権大会への足がかりとも言える本大会は、福井県松岡町北陸電力体育館（フレア）に、2面のコートを取り、連日、新聞、TVの放送などにも取り上げられ、雪、寒さを吹っ飛ばすほどの熱き戦いが繰り広げられた。

ベスト8には順当なチームが勝ち進み、準々決勝は、本田技研熊本対K・F・C、大阪ガス対三景、北陸電力対トヨタ自動車、日新製鋼呉鉄球会対大同特殊鋼星崎、となかなかの好ゲームが展開された。

準決勝の本田技研熊本対大阪ガスは、危なげなく本田が勝ち決勝へ。北陸電力対日新製鋼呉は、日新が立ち上がり好スタートで点を取り、6対1と滑り出しよく、このまま行くのかと思われたが、今回の北電は一味違った。先日のトヨタ自動車戦の逆転勝利に気をよくして、波に乗り、日新戦をも勝ち、決勝へ。

決勝戦の北陸電力対本田技研熊本は、日本リーグ前期の熊本乗り込みでの勝利で自信を持った北陸電力が、地元での声援も受け、守っては鉄壁のGK熊本からの速攻や、横越などの活躍で初優勝を飾った。

北陸電力初優勝までには選手の頑張り、会社あげての熱烈バックアップはもちろんのこと県勢の若い力の台頭、昨年のインターハイ優勝（福井商高女子）、一昨年の準優勝（北陸高）、全国中学校大会第3位（光陽中女子）、JOC杯第3位（福井選抜）などのジュニア層の活躍も忘れてはならない。

女子は立山アルミ、ムネカタ、自衛隊体育学校の3チームによるリーグ戦が行われ、2戦全勝の立山アルミが初優勝を飾り、日本リーグ一部への充分な手ごたえを感じさせた。

オリンピック大会における ハンドボール王国!!

富山大学　横山泰行

1. はじめに

オリンピック大会において、ハンドボールは男性で7回、女性で5回実施され、比較的歴史の新しい競技である。過去のオリンピック大会に参加した国々は男性27か国、女性19か国に及んでいる。このレポートでは、参加各国(3)のメダル獲得の有無、競技力得点、勝率などから、オリンピック大会における男女のハンドボール王国や日本の活躍状況などを明らかにしようとするものである。

2. オリンピック大会におけるメダル獲得国

表1はオリンピック大会における男女のメダル獲得国を表したものである。ハンドボールはその発祥の地であるドイツで、オリンピック史上（第11回ベルリン大会）はじめて実施された。はじめての大会は現代と異なり、11名のプレーヤーによって、場所も屋内ではなく屋外で展開された。最初の金メダルを獲得したのは地元のドイツである。さらに、参加した6か国のチームのうちヨーロッパ・チームが5位まで独占した。したがって、当初のハンドボールはヨーロッパ色の濃い競技であったと推測できる。

チームのメンバーも、女性は1957年、男性も1963年から11人制から7人制に変更になり、場所も屋内で実施されるようになった。1958年のルールの改正により、ゴールエリアを平面として取り扱うことが可能となり、豪快で華麗なジャンプシュートやスカイプレーなどが出現し、ハンドボールをより魅力あるスポーツへと変身させる結果となった。ハンドボールのオリンピック大会への復帰には紆余曲折があったけれども、男性のハンドボールは第20回ミュンヘン大会で正式競技として採択された。女性のハンドボールも次回のモントリオール大会からオリンピック大会に初登場することになった。

表1　オリンピック大会におけるメダル獲得国の順位

性	回	大会	1位	2位	3位	日本
男性	11	ベルリン	ドイツ	オーストリア	スイス	不参加
	20	ミュンヘン	ユーゴスラビア	チェコスロバキア	ルーマニア	11位
	21	モントリオール	ソ連	ルーマニア	ポーランド	9位
	22	モスクワ	東独	ソ連	ルーマニア	不参加
	23	ロサンゼルス	ユーゴスラビア	ドイツ	ルーマニア	10位
	24	ソウル	ソ連	韓国	ユーゴスラビア	11位
	25	バルセロナ	ソ連（ＥＵＮ）	スウェーデン	フランス	不参加
女性	21	モントリオール	ソ連	東独	ハンガリー	5位
	22	モスクワ	ソ連	ユーゴスラビア	東独	不参加
	23	ロサンゼルス	ユーゴスラビア	韓国	中国	不参加
	24	ソウル	韓国	ノルウェー	ソ連	不参加
	25	バルセロナ	韓国	ノルウェー	ソ連（ＥＵＮ）	不参加

ミュンヘン大会では、共産圏の活躍が目覚ましく、ユーゴスラビア、チェコスロバキア、ルーマニア、東独、ソ連の順で5位までを支配した。オリンピック初出場の日本は参加国16か国中11位であった。「日本チームで最も身長の低い野田選手の〝ムササビシュート〟と、日本人の心理的特性と身体的特性を生かして開発したコンビネーションプレーである〝スカイプレー〟(2)を駆使して観衆を魅了し、技術的にも高い評価を受けたといわれている。

男女のそろったモントリオール大会において、共産圏の快進撃は男性のみならず女性においても認められた。金銀銅のメダルは男女とも共産圏諸国に独占され、その中でも、ソ連チームは男女とも金メダルを獲得するという偉業を達成した。共産圏以外のチームでは、男性の場合4位となったドイツ、女性の場合5位となった日本の活躍が目を引いた。日本の女性チームは4位となったルーマニアに1点差で惜敗したけれども、「蔵田選手は日本人特有のクイックモー

ションからの正確なコントロールによるシュート力で、5試合で28点をあげる活躍を示し、女子最多得点選手に輝く」[2]という驚くべきパフォーマンスを発揮した。日本の男性チームも、参加チームが前回よりも4か国少なくなってはいたけれども、オリンピック史上最高の9位を獲得した。

第22回モスクワ大会と第23回ロサンゼルス大会は主要な欧米諸国や東欧諸国のボイコットにより、変則的なオリンピックであった。モスクワ大会では、男性の優勝はソ連から東独に変わったけれども、女性の優勝は前回同様、ソ連であった。ロサンゼルス大会では、ユーゴスラビアが男女とも金メダルを独占し、オリンピックをボイコットしなかった共産圏のルーマニアと中国が男女の銅メダルを獲得した。戦後はじめて、非共産圏のドイツ（男）と韓国（女）が銀メダルに輝いた。次回のオリンピックに予定されていた韓国の女性チームが急激に台頭し、ヨーロッパ以外の国として最高の順位をこの大会で達成した。日本の男性チームは前回よりランクをひとつ落とした10位であった。

第24回ソウル大会では、開催国の韓国女性チームは念願の初優勝を果たし、男性チームも世界の王者ソ連に次ぐ第2位の地位を確保した。銀メダルに輝いた女性のノルウェー・チームもさっそうと世界の檜舞台に躍り出た。こうした結果から見て、戦後のハンドボールの世界を支配してきた共産圏チームに大きなかげりの見えた大会となった。日本の男性チームはオリンピック大会への参加を果たしたものの、11位と芳しくない成績であった。

第25回バルセロナ大会における、男性の結果を眺めてみると、EUNと名称の変更になったソ連チームが通算3回目の金メダルを獲得したが、銀・銅メダルは新顔のスウェーデンとフランスに落ち着いた。女性は前回と同様の結果であった。日本選手は男女ともオリンピック大会に選手を参加させることができなかった。

3. 競技力得点から見たオリンピック大会の順位

表2は競技力得点によって、オリンピック大会での活躍を順位付けたものである。競技力得点とは、オリンピック各大会の1位に8点、……8位に1点を与えて算出された、オリンピック参加国の活躍の度合いを示す尺度である。競技力得点によれば、男性の場合、ベスト3はソ連、ルーマニア、ユーゴスラビアであり、優勝経験のないルーマニアが第2位と健闘してい

表2　競技力得点から見たオリンピック大会の順位

性	順位	国　　名	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	得点
男性	1	ソ連	3	1	0	0	1	0	0	0	35
	2	ルーマニア	0	1	3	0	1	0	0	1	30
	3	ユーゴスラビア	2	0	1	0	1	1	0	0	29
	4	ドイツ	1	1	0	1	0	1	0	0	23
	5	ハンガリー	0	0	0	3	0	1	1	1	21
	6	スウェーデン	0	1	0	0	2	0	1	0	17
	7	東独	1	0	0	1	0	0	1	0	15
	8	チェコスロバキア	0	1	0	0	0	1	1	0	12
	9	韓国	0	1	0	0	0	1	0	0	10
	10	スペイン	0	0	0	0	2	0	0	1	9
女性	1	ソ連	2	0	2	0	0	0	0	0	28
	2	韓国	2	1	0	0	0	0	0	0	22
	3	ユーゴスラビア	1	1	0	1	0	0	0	0	20
	4	ノルウェー	0	2	0	0	0	0	0	0	14
	5	東独	0	1	1	0	0	0	0	0	13
	5	中国	0	0	1	0	1	1	0	0	13
	7	ドイツ	0	0	0	2	0	0	1	0	12
	8	ハンガリー	0	0	1	1	0	0	0	0	11
	9	チェコスロバキア	0	0	0	0	2	0	0	0	8
	14	日本	0	0	0	0	1	0	0	0	4

る。女性の場合、ベスト3はソ連、韓国、ユーゴスラビアの順である。男性ではドイツ、ハンガリー、女性ではノルウェー、東独が前記の国々に続いている。非共産圏の国では、韓国、ドイツ、ノルウェーの3国の活躍が際立っている。日本の女性チームは競技力得点4点で世界の第14位、男性チームは入賞を果たしていないためランク外である。

4. オリンピック参加各国の戦績(1)

表3と表4はオリンピックに参加した主な国々の戦績を男女別にまとめたものである。男性の場合、7回のオリンピック大会で5回以上参加している常連国として、ルーマニア、ハンガリー、ユーゴスラビア、ソ連、ドイツ、スペインといった6つの国を挙げることができる。競技力得点の上位5つの国は前記のスペインを除いた国で構成されている。さらに、そのうちでオリンピック優勝2回と3回のユーゴスラビアとソ連は勝率の第1・2位を占めている。オリンピック大会に1回のみ出場して勝率の第3・5・6位に位置するオーストリア、フランス、ノルウェーを除くと、勝率の第3位から第5位は東独、スウェーデン、ル

表3　オリンピック大会における各国の成績(男)

順位	国名	回数	勝	負	引分	勝率	得点	失点	平均得点	平均失点
1	ユーゴスラビア	5	25	4	2	0.839	703	558	22.7	18.0
2	ソ連	5	25	4	3	0.828	705	518	22.0	16.2
3	オーストリア	1	4	1		0.800	60	29	12.0	5.8
4	東独	3	14	4	1	0.763	374	328	19.7	17.3
5	フランス	1	5	2		0.714	157	143	22.4	20.4
6	ノルウェー	1	5	3		0.700	90	87	18.0	17.4
7	スウェーデン	4	16	7	3	0.673	536	465	20.6	17.9
8	ルーマニア	6	21	10	2	0.667	644	565	19.5	17.1
9	ポーランド	3	9	5	2	0.625	322	286	20.1	17.9
10	ドイツ	5	17	11	2	0.600	556	458	18.5	15.3
11	チェコスロバキア	4	10	11	3	0.479	465	443	19.4	18.5
12	韓国	3	8	9	1	0.472	435	480	24.2	26.7
13	スペイン	5	13	15	1	0.466	585	582	20.2	20.1
14	アイスランド	4	9	11	4	0.458	483	491	20.1	20.5
15	デンマーク	4	10	12	1	0.457	449	451	19.5	19.6
16	スイス	2	5	6		0.455	266	292	24.2	26.5
17	ハンガリー	6	14	19	2	0.429	626	641	17.9	18.3
18	日本	4	8	21		0.276	426	512	14.7	17.7
19	キューバ	1	1	4	1	0.250	135	165	22.5	27.5
20	エジプト	1	1	5		0.167	119	137	19.8	22.8

ーマニアとなる。オリンピック大会に4回の参加を果たしている日本は8勝21敗で勝率0・276を確保し、参加27か国の中で第18位をキープしている。

女性の場合、5回のオリンピック大会で3回以上参加している国はソ連、韓国、ユーゴスラビアの3か国に過ぎない。オリンピックの金メダルはすべてこうした3か国によって独占されている。さらに、勝率8割を超えている第1位のソ連と第2位の韓国は参加した大会で、必ず上位入賞を果たしている。勝率第3位以降の国々はユーゴスラビア、東独、ノルウェーである。競技力得点において上位5位以内に位置する国々は勝率においても上位5位以内に収まっている。日本の女性チームはオリンピック大会で1勝しかしていないけれども、勝率2割で参加19か国の中で第14位にランクされている。

オリンピック大会において、1試合当たりの平均得点や平均失点を求めると次のようになる（表3と表4）。男性の場合、勝率上位10位以内の国において、平均得点のベスト3はユーゴスラビア、フランス、ソ連、平均失点のベスト3はオーストリア、ドイツ、ソ連、平均得失点差のベスト3はドイツ、オーストリア、ソ連である。特に、戦前活躍したドイツやオーストリ

表4　オリンピック大会における各国の成績（女）

順位	国　名	回数	勝	負	引分	勝　率	得点	失点	平均得点	平均失点
1	ソ連	4	17	2	1	0.875	427	277	21.4	13.9
2	韓国	3	11	2	2	0.800	381	332	25.4	22.1
3	ユーゴスラビア	3	10	4	1	0.700	338	265	22.5	17.7
3	東独	2	6	2	2	0.700	180	105	18.0	10.5
5	ノルウェー	2	6	3	1	0.650	215	202	21.5	20.2
6	チェコスロバキア	2	5	4	1	0.550	206	180	20.6	18.0
7	ハンガリー	2	4	4	2	0.500	165	129	16.5	12.9
8	中国	2	4	5	1	0.450	240	221	24.0	22.1
9	ドイツ	2	4	6		0.400	212	211	21.2	21.1
9	ルーマニア	1	2	3		0.400	73	83	14.6	16.6
14	日本	1	1	4		0.200	72	115	14.4	23.0

アでは、平均得点や平均失点が低く、平均得失点差が大きくなっている。勝率11位以下といった下位チームの平均得点は日本を除いて、上位チームの平均得点とあまり変わらない傾向にある。しかし、下位チームの平均失点は上位チームのそれよりも一般的に大きく、したがって、下位チームの平均得失点差はマイナスに傾いている。日本の17・7という平均失点は勝率1位のユーゴスラビアの18・0という平均失点よりも低く、多くの上位チームのそれに近い値である。しかし、平均得点は下位チームの中でもダントツの最下位である。こうした日本の得点力のなさがオリンピックで下位に低迷している最大の原因であると結論づけることができよう。

女性の場合、オリンピック大会に2回以上参加している9か国において、20点以上の平均得点は7か国、20点以上の平均失点は4か国に認められている。その中でも韓国は平均得点においても平均失点においても最高点を計上している。つまり、韓国の平均得点はソ連のそれよりも4点高く、失点以上に得点を重ねているため、韓国チームは世界に君臨することができるのであろう。平均得点のベスト3は韓国、中国、ユーゴスラビア、平均失点のベスト3は東独、ハンガリー、ソ連、平均得失点差のベスト3はソ連・東独、ユーゴスラビアである。勝率14位の日本女子チームの平均得・失点を勝率10位以内にいるチームのそれと比較すると、平均得点も平均失点も最下位である。日本の女子チームは日本の男子チームと異なって、平均失点を20点以内に抑えることによって、オリンピックでひとつの活路を見出すことができるであろう。

5. オリンピック大会における記録アラカルト(3)

オリンピック大会のハンドボールに関わる記録のアラカルトをまとめると次のようになる。オリンピック最多出場はスペインの男性Melo選手の4回である。男女の最年少金メダリストはドイツの19・7歳のOrtmann選手とソ連の18・0歳のKarlova選手、最年長金メダリストはソ連の36・0歳のKlimov選手とソ連の34・5歳のPoradnik-Bobrus選手である。1試合での最多個人ゴールは男性では、ハンガリーのVarga選手と日本の玉村選手の13点である。玉村選手はソウル大会の対ハンガリー戦でこうした快挙を達成した。女性では、ユーゴスラビアのKolar-Merdan選手の17点である。男性のユーゴスラビアがモスクワ大会の対クウェート戦で出した44点、女性のハンガリーがモスクワ大会の対コンゴ戦で出した39点が1試合での最多チームゴールである。最多ゴール試合は男性では、ロサンゼルス大会のドイツ対韓国戦(62点)、女性では、ソウル大会の韓国対チェコスロバキア戦(60点)である。ソウル大会で日本の男性チームが、韓国に33対24で負けた試合は最多ゴール試合の第5位にランクされている。

6. おわりに

オリンピック大会におけるハンドボール王国を獲得メダル、競技力得点、勝率などから決定すると、男性では、ソ連、ユーゴスラビア、女性では、ソ連、韓国、ユーゴスラビアに落ち着く。

[引用文献]

(1)Kamper, E. and Mallon, B: Il Libro D'Oro Delle Olimpiadi, Vallardi & Associati Editrice, 1992, pp. 181-185.
(2)日本オリンピック委員会監修、日本オリンピック・アカデミー編：オリンピック事典、プレス・ギムナスチカ、1981, pp. 190-192。
(3)Wallechinsky, D.:The Complete Book of the Olympics, Penguin Books, 1984, pp. 352-357.

指導者の条件

明確な指導者の指導理念が選手の技術の育成、人間形成に深く関連する



全日本女子監督
樫塚　正一

指導者像の3つの分野（育成の考え方（心構え）（優勝の条件）について原稿の依頼をもらつた後、改めて指導者像を考えたが限られた枚数の中で指導者を決定づけることは難しい作業であった。指導者は多くの経験と知識を持っていなければならないことは当然のことながら、経験や知識を失敗の許されない状況で選択しなければいけない責任を求められる大変な仕事である。まとめきれれず語りつくせるものではなかったが、少しでも役に立つものであってほしいと願っています。

1．選手育成の考え方

チームをどの様に強くするか、選手をどの様に育てるかについてはこれといった絶対的な方法は無く、現場の指導者は常に与えられた環境の中で選手の育成する方法を模索しながらチーム作りを行っている。チーム作りの為に一般的に存在する条件にはどの様なものが有るか、そしてこれらの条件に対して、指導者は自分の信じているバンドボールをどの程度まで対応させるべきか考えなければならない。この条件を成功させる為には指導者は自分の指導理念をはっきりさせることが大切な要因となる。指導理念や信念を持った考え方は最初からあるものではなく、指導者として積み重ねられた知恵と知識であり、それは自分がプレーしたことや、指導者として関わるところから芽生え始めるものである。

指導理念を形成するものは、プレーヤーだった時の経験・ゲーム観戦で学びとつたこと・本で知った練習法・勉強してきたチーム作りのアイデア・自分の持ち味などが考えられ、これらの要素を環境の中で生かす能力が問われる。経験を積んだ指導者は、3つのテーマに対して、具体的な指導が大切となる。

❶プレーの展開方法や技術のスタイルを決定する

多くの指導者は自身がプレーヤーとしてプレーしたことを信じているが、これがプレーのスタイルの基礎となるものであり、この基本となるプレーの上に自分お求める展開方法とプレーの技術の考えを加える。

❷練習計画を立てる

チームの方針が決定されたならば、成功する為に十分な計画立案が必要になる。目標に対して練習期間の全体を見通してシーズン・1ケ月・週・日々の計画は練習効果に深い関係がある。

また、毎日の練習の中には現在必要とするものと将来に於いて必要となるものの両方が含まれていることが条件となる。

❸選手の能力を知る

チームには多くの選手が存在しており、選手にはそれぞれの異なった能力の違いが有る。練習の内容が対象とする選手のそのレベルなのか理解できた上で練習が行われるべきである。

2．指導者の心構え

指導者がはっきりとした確信が持てる心構えを持つということは、選手の技術の育成にも人格形成にも深い関連がある。指導者の心構えとは自己を認識すること自分の価値観を明確にすることである。

◆指導者が一定の方針を持っていなければ、それを選手に伝えることは出来ない。

◆指導者の行動に一貫性がなければ選手の反応にも適性な一貫性は見られないであろう。

◆指導者に競争に必要な精神力が欠けているとき、指導で選手の精神力を育てることは出来ない。

◆はっきりした価値観を持っている指導者は、迷っている中でも選手をよい方向へ導くことが出来る。

3．優勝への条件

チームが優勝する為の条件には2つの局面があり、試合までに準備が出来るものと、試合が始まった後、その場面や流れの流れ中で瞬間的に判断するものがある。優秀な成績をおさめている指導者が、共通に重要だと考えて大切にしている条件とは次の事項である。

❶理論と技術

技術的な知識・実践技術・作戦・戦術的理解の知識と実践する能力。

❷勇気と責任感

どんな状況におかれても冷静に判断して信念をもって判断と行動できる勇気や、行動した結果に対して責任をとる姿勢。

❸創造力と研究心

練習のマンネリによる意欲の低下や、人間関係の溝などの問題点を解決し、やる気を生み出す創意や工夫と研究心。

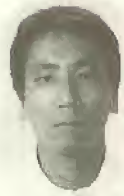
❹思いやりと愛情

メンバーに対して常に細かい所まで思いやる気持ち、目に見えない所での気配りやさりげない優しさの表現。

❺情熱と闘志

「必ず優勝する」といった感じる情熱と闘志、最後まで信念を曲げずに、目標達成に向かってメンバーを引っ張っていく行動力。

ハンドの魅力・楽しさを中学校で細かなことは高校にお願いする



愛知県春日井市立中部中学校　辻井賢一

この原稿を依頼されたとき、正直なところかなり迷いました。私にはハンドボールの競技経験がありませんし、確固たる指導理念も持っていません。そんな者に「チームづくり」を語る資格はないと思ったからです。しかし、この機会に、中学生に対する自分の指導方針を見直せたらと思い、恥ずかしながら持論を述べさせていただきます。

（以下、練習中によく使う言葉を思い返し、自分なりの理念を述べたいと思います。）

『おまえはパスマシーンか』

シュートをねらわずにパスばかり回す、3対2や2対1の状況になると、たいていパスをする。そんな選手には必ずこう言います。よく、「春日井中部は攻撃の展開が早いね」と言われます。よい意味ももちろんあると思うのですが、「単発で打ちすぎ」「無理打ちしすぎ」「もっと崩してから打てばいいのに」という意味が含まれていると考えています。

しかし、中学生（特に初心者）のあいだはこれでいいと思っています。

「華麗なパスより強気のシュートを先に覚えよう」を合言葉に練習では次のことに注意しています。

◆1対1の練習はフェイント技術練習に偏らせない（フェイント技術は別に指導する）ディフェンスが引いていれば、どんどんロング・ミドルシュートをねらわせる。入りそうにないシュートが入った場合は、なぜ今のシュートが入ったのか説明して（たいていブラインドをうまくつかっている）自信をつけさせるようにする。

◆ポストを絡めた2対2、3対3の練習では、ポストに落とすことよりもポストを利用して自分が打ちにいくことを先に指導する。特に、フットワークによってポストを守っているディフェンスのチェンジミスを誘い、ブロックプレーを多用する。

『守れない選手は使わないよ！』

初心者にはハンドボールの楽しさを覚えさせるため攻撃中心に練習しますが、新チーム結成時（8月）はディフェンスの大切さ、「守って速攻」を徹底的に指導します。誰でも華麗な攻撃に目がいき、地味なディフェンスはいやがるのですが、「いやなことは先にやってしまおう」、「守りは運動能力だけではない」、「点をとることよりもとられないことが大事」など精神面を中心に指導します。

練習では次の4つに注意しています。

◆フットワーク

休日・長期休業中は、サイドステップ、クロスステップ、ダッシュ&ストップなど、基本的なフットワークを1時間以上練習する。

（足運びを徹底的に）

◆オフェンスとの駆け引き

守りを楽しいものにするためには、オフェンスとの間合いをいかに自分が守りやすい間合いにするか。

詰めてくると思ったらこない、詰めないと思ったら、詰められた。そんなディフェンスを1対1の練習で習得させる。

◆パスカット

パスカットほど相手にダメージを与えるものはない。オフェンスの視野外から積極的にパスカットをねらう。

ただし、カットできなかった場合のディフェンスシフトはもっと大切。

◆チームディフェンス

自分たちより力が上のチームには1対1の守りだけでは所詮無理。どこで勝負するのか（ロング、ポスト、サイド）、多くの練習試合の中で選手に考えさせる。

『タテ攻撃、タテに入れ！』

練習中に一番よく使うのはこの言葉です。最近は、一般的に言われるタテ攻撃とはかなりかけ離れてきましたが、選手に攻撃方法をわかりやすく説明するには、おもしろい言葉ではないかなと思います。特に次の3つに注意しています。

◆フェイントはディフェンスの間をタテに入ったときが一番切れる。

◆タテ速攻は最初から最後までまっすぐ走ることではない。ポジションに関係なく、中盤ディフェンスの間をタテにフォローすることである。

◆タテに入るためにはその前にフットワークでディフェンスを外しておくこと。

以上、簡単に述べましたが、どれも基本的なことばかりで、特別なことはなにもやっていません。中学生段階において多くのことを要求するのは無理があるし、興味をも奪いかねません。多少横着な言い方かもしれませんが、

「ハンドの魅力・楽しさを中学校で教え、細かなことは高校にお願いする」

という姿勢で指導していきたいと思っています。

審判インフォメーション

平成8年度向けの委員会からの通達

1．カラー審判着の着用について

（1）ハンドボール競技の審判着は黒色の審判着が基本である。各種大会に参加の審判員は、黒色の審判着は必ず携行する。

（2）対戦チームのユニフォームと区別がつけば、カラー審判着を着用しても差し支えない。

（3）短パン、ストッキング、シューズについては黒色のものを使用する。

（4）各大会において審判着を指定することが出来る。

☆次のものは審判着として認めない。

ペアレフェリーが同色・同デザインのものを着用していても、それがTシャツであったり、ポロシャツ等の場合は、審判着として認めない。

2．ベンチでのメガホンの使用について

平成8年度各種大会より、交代地域へのメガホンの持ち込み、使用は認めない。

3．コルセット・プロテクター（サポーター）の着用について

先月号でも述べましたが、腰部を保護するために着用するコルセットは、競技規則4－7に従いユニフォームの下に着用しなければならない。

また、膝や肘を保護するためのプロテクター（サポーター）等は、プレーヤーに危害を及ぼすものを身につけてはならない。金属を使用したものを身につける場合は、スポンジでカバーする等の安全が保障されるものでなければならない。

これらの要件を満たさないプレーヤーは、それをただすまで、競技に出場することは認められない。

中体連も外国人学校の大会参加門戸開く

日本中学校体育連盟（中体連）は2月14日、常務理事会を開き、97年度から外国人学校の参加を認める方針を決め、正式には3月8日の理事会、評議員会で決定した。

対象になるのは現在朝鮮中高級学校など29都道府県で59校となっている。

高体連はすでに一昨年から門戸を開いている。

●職を求む●

Mr.BENKREIRAMOHAMED
フランス在住アルジェリア人、1960年3月8日生　既婚
監督ないしコーチ職を求む
詳細（略歴、実績）は日本ハンドボール協会に問い合わせて下さい。

全日本Bチーム（22歳以下）ドイツ・フェルデンチーム対戦メンバー

男子強化部は4月7日、大阪でのドイツ・フェルデンチームと対戦するメンバー（22歳以下、大学生）を下のように決定した。

日独親善試合選手名簿

	氏名	所属	出身校	身長	体重	年齢
GK	安藤功規	(中部大･3年)	北陸高校	180	74	21
	元村東弘	(中央大･3年)	桃山学院高校	186	86	21
	濱口　靖	(大体大･3年)	境高校	186	85	21
CP	池辺健二	(大体大･3年)	久留米工業高	194	83	21
	森山　透	(日体大･3年)	熊本市立商高	172	65	21
	須藤武志	(早稲田･3年)	浦和学院高校	178	64	21
	野村広明	(国士舘･3年)	大分電波高校	176	70	21
	荒尾祐治	(日体大･3年)	北陸高校	172	68	21
	工藤誠司	(筑波大･3年)	青森商業高校	182	72	21左
	羽賀太一	(中京大･3年)	京都両洋高校	192	81	21
	齋藤泰貴	(中京大･3年)	清水市立高校	187	77	21
	荒木誠司	(大体大･3年)	境工業高校	172	65	21
	清水祥二	(大体大･3年)	桂高校	184	80	21
	田中慎一	(福岡大･3年)	久留米工業高	180	75	21
	岩本　裕	(国士舘･2年)	下松工業高校	187	75	20
	田中　将	(日体大･2年)	伊奈高校	172	67	20左

納得いかない審判ホーム制

フリースロー
Free Throw

企画・広報委員　早川文司

日本リーグが終わった。懸案ののホーム・アンド・アウェー制が導入された初のリーグだったが、それぞれ独自のアイデアで成功させようという意欲が感じられた。来シーズンはさらに目標とする地域との連帯が推進されることを楽しみにしている。

ところで、今回のリーグで気になることがあった。審判員の人選だ。私が出食わした会場だけかもしれないが(せめてそう願いたい)こちらも〝ホーム制〟だったことだ。「開催地の審判が笛を吹く」―どうにも首をかしげざるを得ない。

関係者に尋ねてみた。「仕事などでスケジュール調整が難しいのでは」「経費の問題では」などの声が返ってきたが、今ひとつ納得のいく説明が得られなかった。

経費面が主な理由だとすれば、吐き違いもはなはだしいと言わざるをえない。むだ遣いは慎まなければならないのは当然だが、使わざるを得ないものには、他を節約してでも回すべきだ。

ホームチーム側の審判採用は、弊害が大き過ぎる。審判員自身も「えこひいきしているのでは」と疑問視されることへのプレッシャーがあろうし、アウェー側からすれば、どうしても「不公平」と感じる場面も出てくる。現にホームチームに有利と思われる場面にも何度か出食わした。

これでは互いに不信感は募るし、試合も変な方向へ流れてせっかく足を運んでくれたファンにも失礼だ。さらに選手、審判員双方ともレベアップに水を差すことにもなる。

痛くない腹を探られないためにも、開催地以外の〝第三地域〟からの審判員の派遣が当たり前なのは言うまでもない。その結果、多少の経費増は止むを得ないし、それをとやかく言うべきではあるまい。ハンドボールの活性化を叫ぶなら、そのあたりの基本理念を真っ先に打ち出すべきである。

来シーズンの日本のリーグにあたって是非とも改善してほしい最大の反省点である。

IHF(国際ハンドボール連盟)ニュース

IHF、理事会(於ローマ)2/8—10、報告

①ハンドボールをもっと魅力的に
この為ルール変更96年総会で発表
実行は97年8月11日以後有効

②クラブチームのワールドカップ
97年に第1回実施したい。

③第26回通常総会7/15〜17
米国ヒルトンヘッドアイランドにて開催

④IHF新メンバーにマルタ加盟
総会で承認されれば138番目のメンバーになる。

⑤ユニバーシアードに於けるハンドボール
メンナでのユニバーシアードの競技種目にハンドボールが初めて加えられている。
過去、学生世界選手権大会、ユニバーシアードは別種目で実施されてきた。

⑥アトランタオリンピック
キューバに代わってブラジルが出場。
キューバ不参加の理由はスポーツ技術上の理由となっている。

⑦アトランタでのレフェリー
IHF、PRCには12ペアのうち7ペアと次の如く決定した。
Thomas/Thomas（ドイツ）
Gallego/Lamas（スペイン）
Moelle/Mvoula（コンゴー）
Boysen/Boehne（アメリカ）
Oie/Hogsnas（ノルウェー）
Elbrond/Lovgvist（デンマーク）
ALHOLY/AIENizi（クウェート）
KBLFトルコでのレフェリーコース（2/20〜25）のあと指名される。

⑧95年女子世界選手権大会、大いなる興味
テレビはゲームの放送で大変な面白さを示した。CWLテレスポーツ(スイス)によると16ヶ国182の番組で放映、放映時間は135時間、その間の視聴率は全部で7600万人を数えた。前回のノルウェー大会より著しく増大した。

⑨ロシアがハンドボールに於てリード
4つの世界選手権大会（ダンシ、女子、男子ジュニア、女子ジュニア）を考慮した結果、ロシアは全てのカテゴリーに於て8位以内に入っているのはロシアだけ。

1.ロシア	33ポイント
2.ノルウエー	28ポイント
3.フランス	27ポイント
4.デンマーク	25ポイント
ドイツ	25ポイント
6.韓国	23ポイント
7.ルーマニア	22ポイント
8.クロアチア、エジプト	14ポイント
10.スウェーデン、スペイン	13ポイント

世界1位13ポイント、2位11ポイント、3位10ポイント、その後12位まで1ポイント加点する

IHF NEWS

連載／最終回

ミニハンドボール

6・ミニハンドボールのルール

ポール・アーカード
エリック・スマーガード 共著
小西博喜監修

（ルール10）
スローインについて

10：1　ボール全体がサイドラインを越えたとき、スローインを行う。

10：2　スローインは、ボールがサイドラインを越える前に、最後に触れたプレイヤーと反対チームの同じ番号のプレイヤーが行う。

10：3　スローインは、ボールがサイドラインを越えた地点から行う。

スローインを行うプレイヤーは、両足をサイドラインの外にして立ち、ボールが手から離れるまで、サイドラインやコートに触れてはならない（フリースロー）。

10：4　スローインから直接反対チームのゴールに入ったゴールは得点としない（ゴールスロー）。

（ルール11）
コーナースローについて

11：1　コーナースローは、ボール全体がゴールラインを越え、ゴールの外へ出て、しかも、防御側のチームのメンバーが最後に触れていたときに、攻撃側のチームに与えられる。

このルールは、ボールに最後、触れたプレイヤーがゴールキーパーで、自分のゴールエリアにおいて触れた場合には適用されない（ゴールスロー）。

11：2　コーナースローは、レフエリーの合図で行われ、ゴールラインとサイドラインの交差している地点でボールが出たゴール側で行われる。

11：3　コーナースローから直接相手チームのゴールに入ったゴールは得点としない（ゴールスロー）。

（ルール12）
ゴールスロー

12：1　ゴールスローは、次の場合に与えられる。

(a)ゴールの外で、攻撃側のチームのメンバーや、防御側のチームのゴールキーパーが、自分のゴールエリア内でボールを最後に触れて、ボールがゴールラインを越えたとき。

(b)スローオフ（4：3）、スローイン（10：4）、コーナースロー（11：3）やゴールスロー（12：3）からのボールが直接相手チームのゴールに入ったとき。

12：2　ゴールスローは、ゴールキーパーによって、ゴールエリアから行われ、ゴールエリアラインを越えなければならない（フリースロー）。

12：3　ゴールスローから直接相手のゴールに入ったボールは得点としない（ゴールスロー）。

12：4　ゴールスローを行っているとき、相手チームのメンバーは、全員フリースローライン（1：4）より外にいなければならない。

〈写真左上〉

（ルール13）
フリースロー

13：1　フリースローは、次の場合に与えられる。

(a)コートからの出入りを不正な方法で行ったとき（3：2、3：3）。

(b)ボールを扱うときの違反（5：2、5：3、5：6、5：7、5：8）。

(c)相手と接触する上での違反（6：4～9）。

(d)ゴールエリアに対して、コートプレイヤーの違反（7：1、7



:3c)。

(e)ゴールキーパーによる違反(8:2a—b)。

(f)スローインにおける違反(10:3)。

(g)ゴールスローにおける違反(12:2、12:4)。

(h)フリースローにおける違反(13:3、13:6)。

(i)ペナルティースローにおける違反(14:2、3:4c)。

(j)レフェリースローにおける違反。

(k)ゲームの妨害(15:1コメント)。

13:2 フリースローは、レフェリーの合図によって違反が起こった場所から投げられる。攻撃側のチームがゴールエリアラインとフリースローラインの間でフリースローを行うときには、フリースローラインの外の最も近い地点から投げる。

13:3 フリースローを行うときには、投げる人も、投げる人のチームのどのメンバーも、フリースローラインを越えたり、跳んだりしてはならない(フリースロー)。

13:4 フリースローラインの外から直ちにフリースローを行うときは、防御側のチームのメンバーは、ゴールエリアラインのところにいてもよい。

13:5 フリースローからの直接のゴールは得点となる。

13:6 ボールを持っているプレイヤーや、そのチームの他のメンバーに対して違反があり、その違反によってボールを妨害されたとき、レフェリーは違反したチームに対して、フリースローよりも軽い反則を与えてはいけない。

フリースローのときには、直接ゴールへシュートすることが許されている。フリースローラインがないときには、あるものと仮定して行う。

〈次ページ写真参照〉

(ルール14)
ペナルティースロー

14:1 ペナルティースローは、次の様な場合に与えられる。

(a)ルール6:4~9のすべての違反が行われ、しかも、故意だと思われるとき。

(b)コート上のどこで行われた攻撃であっても、その違反によって、ゴールに得点する機会が明らかに妨害されたとき(6:4、5、7~10)。

(c)明らかにディフェンスの目的で、コートプレイヤーが故意に自分のゴールエリアに入ったとき(7:1)。

(d)コートプレイヤーが、故意にゴールエリア内で、自分のチームのゴールキーパーにボールを渡したとき(7:3b)。

(e)ゴールキーパーが防御をしているときに行ったプレイで、相手に危険なプレーをしたとき(6:8、10、8:2)。

(f)ゴールキーパーが、自分のゴールエリアの中へボールを持ち込んだとき(8:2e~f)。

(g)コートプレイヤーをゴールキーパーに不正な交代をさせたとき(8:3)。

14:2 ペナルティースローは、レフェリーの合図によって、ペナルティースローライン(1:5)から、直接相手の、ゴールに向かって投げられる(フリースロー)。

14:3 ペナルティースローを行う間、投げるプレイヤーはペナルティースローラインを越えたり、触れたりしてはいけない(フリースロー)。そして投げるプレイヤー以外のすべてのプレイヤーは、ゴールエリアラインとフリースローラインの間のエリアの外にいなければならない。

14:4 ボールが投げるプレイヤーの手を離れる前に、攻撃側のチームのメンバーがフリースローラインに触れたり越えたりしたときは、

(a)ボールがゴールに入った場合は、ペナルティースローを行う。

(b)ボールがゴール外のゴールラインを越えた場合は、ゴールスローを行う。

(c)ボールがゴールキーパーや、ゴールポストやクロスバーに当たって、ゴールエリア外にはね返っ



たときは、フリースローが与えられる。

(d)ゴールキーパーがボールをつかんだときや、ボールがゴールエリア内に残ったときは、キーパースローアウトが与えられる。

14：5　ボールが投げるプレイヤーの手から離れる前に、ディフェンス側のチームのメンバーがフリースローラインに触れたり、越えたりしたときには、

(a)ボールがゴールに入ったときは、得点が与えられる。

(b)その他の状況のときには、ペナルティースローを行う。

14：6　ペナルティースローが行われている間、ゴールキーパーはゴールエリアの中を自由に動き回ってよい。しかし、ボールが投げるプレイヤーの手を離れるまでは投げるプレイヤーから少なくとも1.5m離れていなければならない。このルールに対して、ゴールキーパーが違反した場合には、ボールがゴールに入らなかったときに限り、ペナルティースローが再び行われる。

14：7　ルール違反によって、明らかに攻撃側チームの得点の機会が奪われ、ゴールに得点されなかった場合、最低限、攻撃側にペナルティースローが与えられる。

ペナルティースローは、コートのあらゆる場所において、故意に違反が行われたとき、また、相手のチームから得点のチャンスを明らかに妨害する違反が行われたときに与えられる。ペナルティースローは、攻撃側の人が行う。ペナルティースローが行われるのは（ルール参照）14：1（c）（d）（e）（f）（g）と同じの場合である。そして反則されたプレイヤーが、ペナルティースローをするプレイヤーに選ばれる。

（ルール15）レフェリースローについて

15：1　レフェリースローは、次の様な場合に行われる。

(a)両チームのメンバーが、同時にルール違反をしたとき。

(b)ボールが天井（屋根）やその付属物に触れたとき。

(c)ルール違反が行われずにプレイが妨害され、しかも、どちらのチームにも、妨害が起こったとき、ボールを持っていなかったとき。

15：2　レフェリースローは、レフェリーがボールを、コートのセンターラインで、床に垂直にバウンドさせることによって行われる（1：6）。

15：3　レフェリースローが行われるとき、ボールが地面に触れるまでは、レフェリーから1.5mより近づいてはいけない（フリースロー）。

レフェリースローは、コート中央のセンターラインから、レフェリーによって行われる。

違反が行われずにプレーが妨害され、その一方のチームがボールを持っていた場合は、妨害が起こったときにボールがあった場所で、ボールを持っていたチームにフリースローを与えることでプレーを再開する。

（ルール16）各種のスローを行うことについて

16：1　スローオフ（4：2）、コーナースロー（11：2）、フリースロー（13：2）、ペナルティースロー（14：2）はレフェリーは笛を吹いてから3秒以内に行う。スローオフ、コーナースロー、フリースローはどの方向に投げてもよい。ペナルティースローは、直接ゴールに投げなければならない。

16：2　キーパースロー（7：2）、スローイン（10：2）、ゴールスロー（12：2）、レフェリースロー（15：2）は、レフェリーの合図（笛）を待たずに直ぐに行ってもよい。

16：3　スローオフ、スローイン、コーナースロー、フリースロー、ペナルティースローを行うとき、投げるプレイヤーの片足（いつも同じ足）は、常にボールが手を離れるまで床についていなくてはならない（フリースロー）。

★

ミニハンドボール

16：4　スローオフ、スローイン、コーナースロー、ゴールスロー、キーパースロー、フリースローを行うとき、投げるプレイヤーは他のプレイヤーがボールに触れるまで、もしくは、相手チームのゴールポストやクロスバーにボールが当たるまで、再びボールに触れてはいけない（フリースロー）。ペナルティースローを行うときには、投げるプレイヤーはボールがゴールキーパーや、ゴールポストやクロスバーに触れるまで、再びボールに触れてはいけない（フリースロー）。

16：5　コーナースロー、ゴールスローやフリースローを行うとき、投げるプレイヤーがどちらかのコートにいて、手でボールを持って、コートの境界線を越えてもよい。

16：6　スローが行われるまで、相手チームのメンバーは、全員投げるプレイヤーから少なくとも1.5m離れていなければならない（ゴールスローではゴールエリアラインから1.5m）（キーパースローでは、ゴールエリアライン上）（フリースロー）。

レフェリーは、スローオフ、コーナースロー、フリースローの前には合図（笛）をしなければならない。

キーパースロー、スローイン、ゴールスローは、レフェリーの合図（笛）なしに直ぐに行ってもよい。

（ルール17）役員について

17：1　ゲームはレフェリーによって進行され、レフェリーはタイムキーパーの役目もする。レフェリーはオフィシャルに手伝ってもらう。記録係はこの場合、試合記録（ゴールの数、警告、退場など）を記入する。これに加えて、プレイヤー交代のラインの付近で、コートから、また、コートへの出入りが行われているかを確かめるのもオフィシャルの役目である。

17：2　コートを決めるためのトスは、ゲーム前にレフェリーによって両チームのキャプテンの前で行われる。トスに勝ったチームは、コートか、スローオフの権利かを選ぶ。

17：3　コートにおいて、ゲームの進行を指示し、ゲームの間中、できる限りボールのそばにいるのがレフェリーの義務である。次の様な場合、レフェリーは笛を吹いて合図する。

(a)ゲームの開始
(b)ルール違反が起こったとき
(c)コートプレイヤーがゴールエリアに入ったとき
(d)ゴールに得点されたとき
(e)スローインのときに、ボールがサイドラインを越えたとき
(f)ゴールスローのときに、ゴールの外でボールがゴールラインを越えたとき
(g)スローオフ、コーナースロー、フリースロー、ペナルティースローの行われる前、そして、キーパースローやゴールスローやスローインの前に時間かせぎをしているとき

17：4　レフェリーは、フリースローやペナルティースローを与えるだけではなく、次の様な違反が起こったときには、攻撃側のプレイヤーに公の警告を与えねばならない。

(a)紳士的でない好意。
(b)繰り返しルール違反を行う。

警告の後にも違反が繰り返されると、攻撃側のプレイヤーは、2分間一時退場（コートの外に出す）される。重要な違反の場合には、反則をしたプレイヤーは、前に警告がなくても2分間退場される。

17：5　紳士的でないプレイが行われた場合には、反則をしたプレイヤーに警告を与えなければならない。反則がコートの中で起こっても、外で起こっても同じである。コートの中においては、反則が繰り返された場合、反則をしたプレイヤーは2分間退場される。コートの外においては、失格とされ、



MINI HANDBALL



ゲームのメンバーとしての資格を剥奪される。レフェリーは、また、コート外の補欠プレイヤーのいる場所において、チームの役員に対しても警告を発する権利を有する。そして、もし、反則が繰り返された場合、反則をした役員を補欠プレイヤーのいる場所から除外する権利を持っている。権利剥奪と除外は、前以て警告がなされていなくても行使することができる。紳士的でない行為によってゲームが妨害されたときは、反則を犯したチームではない方のチームによって、ゲームが妨害されたときにあった地点から、フリースローによって再開される。

17：6 そのとき、コートにいたプレイヤーの退場は2分間で、退場させられたプレイヤーはその間、自分のチームの補欠プレイヤーのいる場所に残っている。そのとき、コートにいなかったプレイヤーの退場は、ゲームの残り時間中で、その間、そのプレイヤーは自分のチームの補欠プレイヤーのいる場所で、残っている退場の間、その長さに関わらず、チームは5人のコート上のメンバー（4人のコートプレイヤーと1人のゴールキーパー）でプレイすることができる。

17：7 ゴールキーパーが退場されたり、除外されたりしたとき、そのチームは、退場時間の間、コートプレイヤーをゴールに入れて交代させることができる。そのとき、ルール8：3を守らなければならない。

17：8 消極的なプレイの場合、つまり、ゴールにシュートしようとしないときは、レフェリーはプレイを中断させて、そのとき、ボールのあった地点からのフリースローを行うことができる。

17：9 故意にゲームの進行を遅らせることは、紳士的でない行為とみなされ、罰則を与えられる。

17：10 前半が終わったときと、後半が終わったとき、レフェリーは笛をはっきりと大きく吹いて、プレイの終わる合図をする。

17：11 ミニハンドボールのゲームに参加するすべてのもの（つまり、レフェリー、オフィシャル、両チームの役員、両チームのプレイヤー）は、ゲームのルールについてよく知っていて、それらのスポーツ精神やマナーに適応し、ミニハンドボールのルールについてのコメントをよく勉強しておく必要がある。

ゲームはタイムキーパーの役割もするレフェリーによって指示される。レフェリーは、ゲーム記録をとるオフィシャルによって補助される。ミニハンドボールでは、レフェリーは、一般的なやり方に従って、ルールには特別な注意を払わねばならない。紳士的でないプレイや行為が起こった場合、レフェリーは反則者に警告を与え、もし、反則が繰り返された場合には、その反則の程度により、2分間そのプレイヤーを退場させるか、ゲームの残りの選手としての権利を剥奪する。チームの中にあるプレイヤーが退場になっていても、そのチームはまだゴールキーパーと4人のコートプレイヤーをコートで使う権利がある。退場とは、個人を罰するものであり、チームを罰するものではない。不適切な議論や言葉をさけるために、信頼のおける役員が推薦される。ミニハンドボールに関して、プレイヤーによい見本を示すのは役員の特別な義務である。

編集後記

連載ミニハンドボール（デンマークハンドボール協会）の紹介で判るように、すでにヨーロッパでは1～3年生の年齢を対象にミニゲームが盛んに行われていることが理解できます。（連載9・10）現在の全国小学生大会とは別に低学年大会の検討が必要です。現行のルールをヨーロッパ的にミニ化し、まず日・韓・台の交流会に発展させる新しいアプローチができればと念願する次第です。



中澤専務理事挨拶



都道府県協会出席者

◇事務取扱責任者連絡調整会議報告

日時　2月25日(日)
13：00～16：30
場所　東京千駄ケ谷　日本青年館

［出席者］
（北海道）駒林昭三（青森）諏訪正徳（宮城）千田文彦（秋田・東北）高山重雄（山形）奥山重雄（福島）後藤義信（茨城）友部右之（栃木）岸裕行（群馬）宇佐美幸彦（埼玉）吉田　治（千葉）稲生　茂（東京）浦山洋子（神奈川）黒田清貴（山梨）窪田正典（新潟・北信越）小林智隆（長野）山浦謙一（富山）幸塚孝行（石川）吉田和雄（福井）吉田淳一（静岡）帯金充利（愛知）村木啓作（三重・東海）夏目眞治（岐阜）今井田康雄（京都）吉田博二（大阪）源野幸次（兵庫）丸茂康子（奈良・近畿）中川敏文（和歌山）田中秀和（鳥取・中国）吉田達明（岡山）藤井俊朗（広島）西元義昭（香川）上濱清司（徳島）東條　敬（愛媛）川田哲也（高知）高橋卓也（長崎）原田国男（熊本）葦原大三（大分）一万田尚登（宮崎）末広芳文（鹿児島）海江田弘（沖縄）宮城靖（関東）佐分正典（実連）津川昭（学連）福地賢介（高体連）本田眞吾（教職員）中野利一（高専）土屋正俊

各協会、連盟の事務を担当されている責任者が一堂に会しての連絡調整会議を開催した。今回が初会合で北は北海道ハンドボール協会から南は沖縄県ハンドボール協会まで42名の都道府県協会、ブロック協会より2名（県協会4名兼務）そして連盟より4名の参加があり、計48名の方々の出席を頂いた。日本協会から各協会・連盟に対して意志の疎通をはかることが大事であり、直接に顔を合わせて重要な事項の説明や徹底等、意見交換をすることで、ハンドボール球界の情報を収得し、または伝達できることを目的に開催することができた。

中澤専務理事より、本会議開催の主旨の説明があり議題にはいった。

日本ハンドボール協会諸規定について

1．登録規程

①8年度登録規程の改定及び登録申請の説明

種別「一般B」を廃止、選手証について新たに種別「高専・高校」を試験的に発行する

「一般L」「一般A」「大学」「高専・高校」の選手証は一括送付、各チームで選手名等記入する。

登録申請について、チーム数、人数共に現象傾向にあるため、7年度都道府県別登録実績表を参考に登録数の増大を推進をお願いした。

特に登録締め日について5月18日迄とし、遅くとも5月31日を期限とした。

②国体一時登録について

各都道府県協会は選抜又は混成チームを編成して国体に参加する場合はブロック大会開催迄に日本協会へ国体一時登録をする事を確認した。

2．競技用具検定規程

検定用具は「ボール」「ゴール」「ゴールネット」

競技用具検定規程により協会の検定を受けたものを使用、暫定検定制度の説明

3．公認判員規程、競技者資格規定の説明

物品販売について

当協会で販売している物品の一部を紹介した。

ジャパン　オープントーナメントについて

大会要項を説明

依頼事項

1．加盟団体・日本協会登録各チームの国際交流に関する届け出について

チームが海外遠征・大会に参加また外国チームを招待する場合等

2．加盟団体主催・共催　関連競技会等の報告

競技会結果は機関誌または他で纏め記録に残す

3．加盟団体の役員名簿提出

平成7・8年度役員（平成8年）として

他に各協会・連盟の役員名簿提出のお願い

質疑に対して

①日本協会登録用紙種別「中学生・小学生・スポーツ少年団」以外の種別の登録用紙の男女別欄での3．混合は削除して、男女いずれか○をしてください。

②国体本大会で登録選手が事故で出場できなくなったときの交代選手は医者の診断書を添えて申請できる。

③競技用具の検定品の確認は大会管理者が調べる、検定品でない場合、暫定検定証を付ける事により暫定で検定したものとする。

④国体競技場の屋内外の割合について現状屋外4コート屋内2コートの6コートであるが、第55回富山国体から屋内外とも各3コートで実施することが日体協で承認された。

⑤ジャパンオープン　トーナメントでブロックで出場枠のチームが揃わない時は開催協会に預ける。今後登録数等を参考にして割当枠が適正かどうか検討し、弾力性をもってよりよい方向にもっていきたいのでご協力を頂きたい。

⑥ジャパンオープン　トーナメントは全日本総合選手権につながっている、この大会に参加したチームは全国クラブ大会には参加できない。

⑦検定のボールの種類が多くあるため大会での使用球が練習の時点でわかるようにして欲しい意見があり関係担当に伝達する。

⑧種別「リージョナル」に機関誌を除いた登録料のみとして普及を図っている。現状では特別なので、今後は他種別と同様に機関誌を込みにした登録料を検討したい。

'97男子世界選手権大会（熊本）について熊本実行委員会事務局より現状の説明と大会盛上げ協力の依頼があった。

ジャパン　オープン　ハンドボール　トーナメント
第52回国民体育大会ハンドボール競技リハーサル大会
開催要項概要

1．主　催

（財）日本ハンドボール協会、堺市、堺市教育委員会、高石市教育委員会、第52回国民体育大会堺市・高石市実行委員会

2．主　管

大阪ハンドボール協会

3．後　援

文部省、（財）日本体育協会、大阪府、大阪府教育委員会、第52回国民体育大会大阪府実行委員会、（財）大阪府体育協会、（財）堺市体育協会・高石市体育協会

4．期　日

平成8年8月11日（日）～平成8年8月14日（水）

5．会　場

〈男子〉堺市大浜体育館

〈女子〉大阪府立臨海スポーツセンター

6．参加資格

(1)平成8年度（財）日本ハンドボール協会に「一般A」で登録したチーム及び個人とする。

日本リーグ「一般L」登録、全日本学生連盟、高体連ハンドボール部、高専ハンドボール部に登録しているチーム及び個人は参加できない。

全国クラブ選手権東地区大会（福島県開催）、西地区大会（山口県開催）に出場するチーム及び個人は参加できない。

中学生以下の参加は認めない。

(2)各地区の予選を通過したチーム、または地区の推薦を受けたチームとし、開催県は男女各1チームの参加を認める。

参加ブロック別割当数

（男子）

北海道（1）東北（4）関東（7）北信越（3）東海（3）近畿（5）四国（1）中国（3）九州（4）開催県（1）

（女子）

北海道（1）東北（2）関東（3）北信越（1）東海（2）近畿（2）四国（1）中国（1）九州（2）開催県（1）

7．参加人員

チーム役員6名以内、選手16名、合計22名（男女とも）以内とする（役員が選手を兼ねるときは、選手としても参加申込をすること）。

8．参加料

1チーム　30,000円

9．競技方法

トーナメント方式による。

10．組合せ抽選

平成8年6月26日（水）

13．競技運営等

(1)試合は男女とも準決勝まで25分ハーフとし、第1延長戦後、7mTCで決する。

3位決定戦は30分ハーフとし、延長戦は行わず、7mTCで決する。決勝戦は30分ハーフとし、第2延長戦後、7mTCで決する。

(2)ユニフォームは各チーム異なる濃淡の2色を用意すること。

背番号は申込書に記載した番号と同一の番号とすること。

(3)シューズは男女ともインドア用、アウトドア用、2足を用意すること。ポイントシューズの使用を禁止する。

(4)チーム責任者は（財）日本ハンドボール協会指定の責任者マークを着用すること。

キャプテンはキャプテンマークを着用すること。

(5)競技中の疾病、傷害等の応急手当については主催者で行うが、その責任は一切負わない。

14．その他

(1)本大会の結果、上位チーム（チーム数は未定）は全日本総合選手権大会に推薦される。

(2)申込責任者は選手の行動に対して責任を負うものとする。

(3)参加選手は必ず健康診断を受けて参加するとともに、健康保険証を持参すること。

(4)参加チームは部旗またはそれに準ずる旗を持参すること。

(5)旗竿は主催者（開催市実行委員会）が用意する。

ハンドボール　CONTENTS　4月号

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』第三六二号
昭和四十年六月七日
第三種郵便物認可
平成八年三月二十六日 印刷
平成八年四月一日 発行
東京都渋谷区神南一-一-一
電話 代表 三四八一-二三六一
振替 〇〇一二〇-七-一〇二九三
編集兼発行人 中澤重夫
定価三百五拾円